ション、オブ、ブリテイツシュ、インダストリー」ノ中ニ	Gwynne 等ハ最熱心ニ此ノ運動ヲ支持シ居レリ「フエデレー 洩レサル様致度シ	シトシテ頻リニ運動シ居り「モーニング、ポスト」主筆 🚽 置度右ニ關シ大体ノ御	認ヲ爲スヲ以テ將來日英及英滿ノ關係ニ於テ好結果アルヘ 於テモ果シテ同様ノ御	家、政治家方面ニテハ米國ニ先ンセラレサル前英國ニテ承 家ニ知悉セシムルコム	ニハ各方面ニ於テ相當本問題ヲ研究シ居ル模様アリ又實業 ニ支援シ居リ此ノ際母	關係上表面的ニハ右決議尊重ノ意思ヲ表明シ居ルモ裏面的 🚽 ヘキ處右運動ニハ「サー、ハ	當國ニ於テハ政府當局ハ滿洲國承認問題ニ付聯盟決議等ノ リ何レニセヨ今少シク具体的ニ計畫進展	第二七五號(極秘) ニ入レアリ或ハ織物業方面ノ者モ入ル	本 省 5月26日前着 的確ニ判然セサルモ組	ロンドン(5月25日後発)(一日下ノ所ニテハ如何ナル方面)	が方対処方請訓 中ナリ	盟の日満両国への使節団派遣計画に対する我視察スルコト時宜ニ適ス	満州国承認問題をも視野に入れた英国産業連共ニ將來ノ投資ノ可否、	18 昭和9年5月25日 広田外務大臣宛(電報) ニ派遣シ更ニ滿洲國ニモ赴キ	 	トワーズ
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		ノ御意嚮御囘示相成度尚目下ノ所新聞ニ	ノ御考ナリヤ此ノ運動指導上豫メ承知致	コトハ極メテ有意義ト思考スルモ政府ニ	ノ際我國情及滿洲ノ狀態ヲ當國有力ノ實業	「サー、ハリー、マクゴワン」等モ熱心	・ク具体的ニ計畫進展セル上更ニ申進ム	3業方面ノ者モ入ルルヤモ知レサル由ナ	ルモ銀行家及「スチール」實業家等ヲ考慮	1ナル方面ノ實業家ヲ之ニ入ルルヤ未タ		適スヘシトノ意見擡頭シ目下内密協議	7否、事業ノ見込等ニ關スル諸事情ヲモ	▲ニモ赴キ一面日英及英滿親善ノ增進ト・ ニー」 / 」 ー い ラ 日本	、B、I、ヨリ有力ナル實業家代	B、 I 理

## 付 英国産業連盟使節団来日関係

へク政府ハ時ヲ移サス之カ準備ニ着手スル所アルヘシト述ハ余カ以前述ヘタルカ如ク英國ハ奈軍擴張ノ必要ニ迫ラル

米ニ轉電シ在歐各大使、壽府ニ郵送セリ ヘタリ

262

3

召19年5月0日	地位ヲ認ムルニ至ラシムルコトニ努力スルコト必要ナリ
18 昭和 ( 4 5 月 3 日 在英国松平大使宛 (電報)	我方トシテハ此ノ見地ヨリ英國トノ關係ヲ重視シ居ルヲ
英国産業連盟使節団の我が方および満州国の	以テ右趣旨ニ依リ貴電御來示ノ如キ英國實業界ノ有力者
実情視察は極めて有意義であるため本件適宜	ヲシテ本邦及滿洲ノ實情ヲ充分視察セシムルコトハ極メ
指導方回訓	テ有意義ト思考セラル
本 省 5月30日後9時0分発	就テハ叙上ノ趣旨御含ノ上適宜御指導相成度
第一四四號 (極秘)	貴電ト共ニ在歐米各大公使壽府ニ暗送アリタシ
貴電第二七五號ニ關シ	貴電ト共ニ在滿大使、奉天、哈爾賓、在支公使、北平及南
一御承知ノ通帝國ノ東亞政策ハ旣ニ確定シ居リ滿洲國承認	京へ轉電セリ
リ外國ニ依賴スルカ如キ	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
ニ出テサルヲ可トスヘク且滿洲國ニ於テモ現狀ヲ以テ進	召口马车等司支
マハ外國ノ承認ハ當然來ルヘキモノト思料シ寧ロ利害闘	E
係大ナル國ヨリ承認ヲ受クル前今日殘サレ居ル各種建設	使節団派遣に対する英国商相の賛意表明について
事業及日滿間諸問題ノ調節等重要問題ノ促進ヲ期シツツ	ロンドン 6月5日後発
アル現狀ナリ	本 省 6月6日前着
二然レトモ外國殊ニ東洋特殊ノ事態ヲ理解スルニ便宜ヲ有	第二九八號(極秘)
スル英國朝野ヲシテ東亞就中滿洲國ノ實情ヲ一層理解セ	貴電第一四四號御來示ノ次第「エドワーズ」ヲ通シ先方ニ
シムルコトノ極メテ有益ナルコトハ申ス迄モナク更ニ進	内報シ置キタル處其ノ後F、B、Iト「マクゴワン」トノ
ンテ我方政策ヲ了解セシメ自然ニ我東亞ニ於ケル特殊ノ	間ニ話進ミ「マ」ハ團長トナルコトヲ内諾セル由ニテ今週
中ニモ團長カ正式ニ決定セハ一行ノ凡ソノ顏觸モ早速定マ	其ノ後本件計畫ハ關係者ノ間ニ於テ着々進捗シ「マクゴワ
ル順序トナリタリ而シテF、B、Iヨリ本件計畫ニ對スル	ン」ハ事情アリテ渡日スルコト困難トナリタル爲更ニ有
「ランシマン」ノ意見ヲ求メタル處商相モ大ニ贊意ヲ表シ	(力)ナル人物中ヨリ團長ヲ物色中ナリシカ今囘大体 Lord
タル趣ニテ一行ノ豫定ハ確定セサルモ大體九月早々當國發	Barnby-Central Electricity Board 及 Lloyds Bank ノ
加奈陀經由ニテ先ツ日本ヲ訪レ夫レヨリ滿洲ニ向ヒ同地ニ	「デイレクター」ヲ團長トシ Julian Ito Piggott (「ピゴツ
テ團體ヲ解散歸路ハ任意ノ行動ヲ採ルコトトナルヘシトノ	ト」少將ノ兄弟ニテ日本生レ目下 Manager of British
コトナリ尚本件新聞發表ノ件ニ付テハ先方ハ他國ニ先ンセ	Steel Export Association) Guy Harold Locock (F.' m'
ラルルコトヲ惧レ當方ト協議ノ結果當分ノ内絶對新聞ニ洩	Iノ「デイレクター」外務省出)外銀行家一名(目下英蘭銀
ラササルコトトセリ御含ヲ請フ	行「ノーマン」等ニ於テ考慮中)計四名八月下旬當地發米
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	國經由龍田丸ニテ九月末日本ニ到着スルコトニ大体決定セ
190昭和9年7月12日 左田外務大豆宛(電報)	『シーヨウ、こう』、日本ではなり、たい『シーマンコン』ナルモル由ナルカ元來本計畫ハ名目ハ實業「ミツション」ナルモ
	ノ目白ノ
使節団派遣の背景には英国皇室および同国大	アルコトハ曩ニ電報セル通ナルカ當國政府部内ニ於テモ大
蔵省などの意向がある旨報告	藏事務次官ニシテ Head of Civil Service ナル Sir Warren
ンドン 7月12	Fisher(日英親善增進ニ關シ大ニ畫策シ居ル人)等カ中ニ入
本 省 7月12日後着	ロル外商務大臣外務當局モ熱心ニ支持
	F、B、Iノ最高「パトロン」トシテ Prince Wales モ本
生く往電第二七五號及第二九八號ニ關シ(日滿視察團ニ關スル	件ニ頗ル熱心ニシテ人選等ニ關シ「サゼツシヨン」ヲ與ヘ
件)	ラレ(タル)趣ナリ當國政府側ノ本件「ミツシヨン」ニ對シ

地位ヲ認ムルニ至ラシムルコトニ努力スルコト必要ナリ

264

五 日英外交関係

) 如キ當國ニ於ケル有力ナル ト往電 トシテ最 ーパ アランス、 『ノ通ナル 初 ኑ ナ ママ 力 セ こス自 人物 י ד ムパ ív 力 ゴ 其 N モ ア 滿へ轉電アリ 新聞發表ニ關シ先方ハ餘リニ早ク新聞ニ知ラス 件ニハ極メテ御熱心ニシテ種々御配慮ヲ煩 ル 1 タルニ付本使ハ殿下ノ御盡力ヲ感佩スト述へ置キ (欄外記入) 模様ナリ 風評出テ他國ヲ剌戟シ自分等ニ先ンセラ 新聞ニハ 注 英国筋ョ 月四日付在英国松平大使より広田外務大臣宛公信 9 2 IJ 逬 \mathcal{N} 樣

リ委細公信) 發表前其ノ形式及日取ニ付本使ト打合ヲ爲シ度旨記シ ド ノ運ト |發表ハ英國出發ノ少シ(前)迄之ヲ行ハサルコト ワ ーズ」ノ同行ヲ希望スル旨ヲ述ヘ本件ニ關スル新聞へ ナル見込ナル旨記載シアリ)ナル ヘキコト並ニ 「エ ト致度ク ・居レ

「スコツト」卿ハ本使ニ對シ本件團長 (ヲ)團長トシテ派遣スルコトヲ得ルニ至レル 「コマーシヤル、 處今囘前F、 分モ亦昨年大患ノ結果膝ニ故障アリ旅行不可能ノ事情ア ン」ヲ物色シタルモ實現ヲ見サリシコ ノ後「サー、 モ欣快トスル所ナリト述へ書面ノ趣旨ヲ敷衍説明シ ハ夫人重病其ノ他家事上ノ都合ニテ是亦實現 ノ重役及 Francis Willey 會社ノ Lord Barnby B, アーサー、バルフオア」ヲ推サントシタ ユニオン、アツシユー Ⅰ會頭ニシテ往電第三八○號申進ノ外 Э ト シ 自分 1 N

「バ」

所ナルニ付本件 「ミツシヨン」ヲ \sim キ旨申越シ 歡迎ス N

旨並 9 IJ **-**出 ト

述へ 更ニ「スコツト」ハ 來得ル丈ケ旅行及視察上ノ便ヲ供與ス

「プリンス、

オブ、

ウ

N

ス」

モ本

~ I

シ 1

9

Ň

ル ヲ惧

レ居レ

トキハ種々

タリ尙右 ル旨語リ 望スル

出 ア 様且本「ミ 「フイツシヤー」等關係アルコト フ前記本件裏面ニ 同行スルコトハ諸般ノ關係上彼我ノ爲好都合ト思考セラル 間接ノ援助ヲ爲サンコトヲ熱望シ居ル旨F、 ハ正式ノ「メンバー」ハ 及協力ニ依リ茲迄纒マリタルモノニシテF、 尚本計畫ハ當初ヨリ ノ上然ルヘク御取計アリタシ ニ付滿洲國側ト リタル處本使トシテモ本件 ッシシ ヨン」渡航モ猶暫ク秘密ニ附セラレ モ御協議ノ上右實現シ得ル樣御配慮ヲ請 「プリン 「エドワー 前記四名トスルモ之ニ同行シ直接 ス、 ズ」 「ミツシヨン」 ニ 「 エ 」 オブ、 ハ 外部ニ絶對ニ漏レ Ի Ļ, ウエールス」又 B B B I I側ニテ Ι Ē ノ話合 $\boldsymbol{\nu}$ Ξ サ IJ Э 审 デ 1 ト ル

ヲ希望ス

へ轉電ア IJ タシ

シ

「ピゴッ

ŀ

ヨリ

ハ未タ承諾ノ囘答ニ接セサル

モ近ク其

通報濟

ノ由ナルヲ以テ同大使ヨリ適當ノ時期ニ適當ナ

N

シ 形 Ξ

テ抱持シ居ル

意嚮ハ外務省ヨリ

,在東京

「クライブ」大使

出とこれに対する我が方歓迎意向表明につい 英国産業連盟よりの使節団日満両国派遣方正式申 τ

ロンドン 7月17日前発

本 省 7月17日後着

第三九七號(極秘)

テ款待シ充分其ノ使命ヲ果サシムル樣官民各方面ト御聯絡 響ニ鑑ミ本邦及滿洲國側ニ於テモ出來得ル限リ胸襟ヲ開 ヨン」ノ目的ニモ鑑ミ且英滿兩國關係ニ及ホス重要ナル影 式ニテ貴方ニ通セラルヘシト思考セラルル處本件「ミツ

+

往電第三八〇號ニ關シ(滿洲視察團渡滿ノ 間ノ親善關係ヲ助長スル目的ヲ以テ日本實業家ト交驩ノ爲 得ルヤヲ確ムル爲滿洲國ニ「インダストリアル、ミツシヨ 何ナル方面ニ於テ滿洲國發展ノ爲(同)地方實業家ト協力シ 爲セリ(右書面ニハF、B、 Locock 本使ヲ來訪シ書面ヲ以テ正式ニ本件ニ關シ申出 十六日F、 ル 日本ヲモ訪問スヘキ處右申出ハ本使ノ支持セラル ン」ヲ送リ度ク右「ミツシヨン」ハ同時ニ日英兩國實業家 1 ^ 豫定ナル ヲ信ス右使節ハ九月二十六日橫濱着、 カ更ニ團員ノ顏觸ハ B, I 1 會頭 Lord Herbert Scott 及 Iハ英國ノ實業及財政界カ如 往電第三八〇號ノ通リ(但 十月二十五日離日 件 へキ處ナ 理事 7

(欄外記入)

最

ヲ以テ本使ハ實ハ本件ニ付テハ先般來内々承知シ居リタ

ハ英國實業

夕

八

機密第四二七号(第19文書)の別添甲号のとお

5

jv.

コ

Þ

ハ

希

192

昭和

9年7月20

Η

広田外務大臣宛(電報) 在英国松平大使より

界ニ於テ滿洲國及我(國)ノ現狀ヲ正確ニ知悉スル ヲ以テ日本政府ニ之ヲ通シ置キタル處日本政府 兼ヌル

-|

Ļ

付テハ知識ヲ有セサルモ夫レ丈ケ何等偏見ヲ有セサルヲ以 」卿挨拶ノ爲來訪自分ハ全ク日本ニ 269

テ同僚ト共ニ日本及滿洲ニ關シ研究ヲ爲スニ却テ便宜カト

二十八日「バー 往電第三九七號ニ關 ンビー 2

第四二七號(極秘)

本 ンドン 省 7月29日前 7月28日後発

着

使節団団長との会談内容について

昭和9年7月28日 広田外務大臣宛(電報) 在英国松平大使より

193

శ్త 項ヲ削除ス」との修正通報があった旨報告されてい National Discount Co. 從テ末尾財界代表者ニ關スル Commercial Union Assurance Co., Director of the Brothers Ltd., Bankers Vice-Chairman of Charles Seligman, Senior Director Colonel Lord Barnby near future ノ near ァ immediate トス ノ次ニ左記ヲ追加ス of Seligman 二、人名 the Sir

can co-operate with local interests in its development. country and of ascertaining whether British Industry Manchukuo, for purpose of studying conditions in that

and friendly contact with the representative organizations The Mission will also pay short visit of courtesy good will to Japan, with object of establishing

of Japanese industry and commerce. Mission will be composed of following members:-

Colonel Lord Barnby, Past President of F.B. i

Mr. Guy Locock, Director of F.B.I.

Mr. Julian Piggott, Representing British Iron and

A member representing financial interests will also **Steel Federation** the gentleman

selected will be published at a later date accompany Mission, and the name of

編 注 本公表文案については、 より広田外務大臣宛電報第四四四号にて、「一、前段ノ 八月八日発在英国松平大使

ø small Industrial Mission ノ small ヲ削除シ in the

五 日英外交関係

處本件公表方ニ關シテハ累次申進ノ通リ英國側ト 府側支持ヲ受ケ居ル旨説明アリ全會一致ノ贊成ヲ得タル モアリ或ハ世間ニ漏ルルコトアルヤモ計リ難キニ付其ノ際 ルヘク遲ク之ヲ爲シ度意嚮ナルモ前記總會ニ計リタル關係 ナル一方「ピゴツト」モ團員タルコトヲ正式ニ承諾シタ 本件計畫ハ今囘F、B、 往電第三九七號ニ 第四一一號(極秘取扱) 別 右公表文案 臣宛第四一二号 關シ I總會ニ於テ披露セラレ尚右 本 ンド 省 $\boldsymbol{\nu}$ 7月21日前着 7月20日後発 -シテハ成 ハ ĩ 由 政 計ヲ請フ 滿ニ轉電ア 劎 電

尚往電第三八〇號「エドワーズ」同行ノ件ニ關シ本人準備 側ニ對シ有力ナル紹介狀ヲ發スル趣ナリ何等御參考迄 方各方面ト接觸シ度キ方針ニテ當國陸軍省ヨリモ日本陸軍 又「エドワーズ」ノ報告ニ依レハ本件「ミツシヨ トセリト語レル經緯アリ右申添フ ルヲ以テ面倒ナル 「ランカシヤ」代表ハ之ニ加ヘサル ど ハ コト 我

ノ都合モアルニ付至急滿洲國側ノ確定的同意ヲ得ル 樣御取

ý タシ

本 $\boldsymbol{\nu}$ ド 省 Ż 7 7月21日前着 月20日後 発

尙往電第三九七號會談ノ際本使ヨリ

「スコツト」ニ對シ綿

send

а

small Industrial Mission

in near

future decided

б ę

В

ハ當館トモ打合ノ上別電ノ通リ公表スルコトト

致度旨F、

No.412

The Federation of British Industries has

I側ヨリ申出アリタルニ付右御含置ヲ請フ

268

ペレーション」ノ問題ヲ取扱フモノナ

囘ノ「ミツシヨン」ハ「コンペチシヨン」ノ問題ヲ取扱フ

モ

ノニアラス「コー

業家代表ヲ團員ニ加ヘサル

ヤト

問ヒタルニ對シ「ボ」ハ今

案について

電 七月二十日発在英国松平大使より広田外務大

personally when we meet, as I understand that I shall	亜局長ヨリ遠藤廳長ニ「エ」ノ有用ナルコトヲ説明セラレテハ
is letter, but I will, of cours	(欄外記入)
goes out with the approval of the highest authorities. I iudge it advisable not to write further on this	英外交配 考迄
although the Mission is styled an "unofficial" one, it	
would add for your confidential information that	(部幹部日系官吏打合會ニ於テ經費ノ點ヲ確メタル上ニテ
Barnby, a former President of the Federation, and I	約トニ付反對意見アリ本件決定モ自然手間取り漸ク一日ノ各記トニ付反對意見アリ本件決定モ自然手間取り漸ク一日ノ各
The Mission is under the leadership of Lord	2及「ブロンソンリー」ノ契約期限到來ノ節之ヲ更新スルコ
Tokyo and Hsinking.	報シ置キタル次第ナルカ財政部總務廳方面ニハ豫テ「エ」
by the Federation of British Industries to proceed to	時早速外交部ニ申入レ其ノ後累次ノ關係電報モ其ノ都度内
Mission of considerable importance has been organised	「ェ」同行ノ件ニ付テハ英發大臣宛電報第三八〇號接到當
I am now, however, writing to let you know that a	桑島局長へ吉澤ヨリ
was difficult to report progress day by day.	往電第九六〇號ニ關シ
It is a long time since I have written to you, but it	第九六五號
My dear Ohashi,	本省 8月2日後着
17th July 1934.	新 京 8月2日後発
(付記)	る旨内報
	使節団は英国最上層部の支持を得たものであ
如何	国外交部次長宛書簡写
付 記 七月十七日付エドワーズより大橋(忠一)満州	識ヲ有セサルモ支那ノ渾沌タル狀態ハ之ヲ承知シ居レリ實
使節団へのエドワーズ同行について	ルコト等ヲ語リタルニーパ」ハ自分ハ支那ニ付テモ何等知
「「「」、)、「」、「」、「」、」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「	リ東政ハ鞏固トナリ匪賍ハ
19 昭和9年8月2日 左田外务大臣范(電服)	、皆同・・・三伐、甘仁・・・・・・・・・・、關シ要領ヲ説キ現在滿洲國ハ平和的ニ進
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	、滿洲官憲
滿へ轉電アリ度シ	コト、露國ノ蒙古侵略、南方ニ於ケル共産黨ノ跋扈、日本
<b>y</b>	以來支那ノ狀況ハ何等改善ノ徵無ク殆ト無政府狀態ナリシ
ヒタル上九月十二日桑港發ノ龍田丸ニ乘船ノ豫定ナル趣ナ	付滿洲事變ノ發生ニ至リタル遠因、 近因例へハ 華府(會議)
」 ハー 足先 ニ 加奈陀	本使ハ一應極東ノ事情ヲ吹込ミ置ク必要アリト認メタルニ
(Assurance*)	
hers. Ltd. and National Discourt	方面ノ人ト充分意見ノ交換ヲシテ見度シト述ヘイニュー
ノ結果 Sir Charles Sel	ノ途ハ自ラ見出サルヘシト思フ阿レ
定ナリシ財政方面代表團員ハ英蘭	スヘシト考フル故ニ日本ノ人々ト胸襟ヲ開
「リザーブー的「タイプーノ人トハ全	ハ之ニ反對シテ日本ノ如キ新進國ハ進出ノ理
ルコトモアリ極メテ新進氣鋭ノ人ニ	ク英國ノ品物ヲ買フヘシト云フ
同氏ハ「テリトリヤル、アーミー」ノ騎兵聯隊ニ於テ指揮	アリ例ヘハ加奈陀ニ對シテモ加奈陀人ハ恰モ通商又
·	ノ立場ヨリ相手方ニ
所ニ於テ爲シタルコトヲ繰返シタルニ	舊弊ヲ脫セス動モスレハ新進ノ國ニ對シ充分ナル
ハ滿洲ニ於テ日本ノ爲サレタルコトハ過去ニ於テ英國カ到	思ハル自分ハ米國、加奈陀等ニ度々赴キタルカ英國人ハ兎

270

the be receiving the Government's orders to proceed with Mission.

and facilities asked for are granted. will give your assistance in seeing that the interviews with the Mission and I shall be most grateful if you the Foreign Minister and to Mr. Sakatani in connection I enclose copies of the letters which I am sending to

meeting you again. I look forward very much indeed of the pleasure of

A.H.F.Edwardes(signed) Yours very sincerely

His Excellency Mr.C.Ohashi

c/o The Manchoutikuo Legation

Tokyo

Dear Mr. Sakatani Personal & Confidential.

17th July 1934.

With reference to my letter of the 28th June, I

have now to confirm that a Mission, under the aegis of to proceed to Japan and Manchoutikuo. the Federation of British Industries, has been organised

one of the leading industrialists of this country. The by, communicated to me. the Bank of England, but whose name has not yet been leading London banks, nominated by the Governor of the Steel Industry; and lastly, a Director of one of the Director of the Federation; Mr. J. Piggott, representing other members of the Mission are Mr. G. Locock, the one of the Past Presidents of the Federation and The Mission is under the leadership of Lord Barn-

tary call assistance and help that the Government may Industry The object of the Mission is as on the β whole, Government, and đ 'n offer to pay a complimenthe name of any need. friendly British

and that it is preferable to make a verbal report to you advisable to make no further comment in this The Mission is styled "unofficial" and I think it letter,

### on my arrival

and also on His Excellency the Japanese Ambassador cations, and the Director of the General Affairs Board, Industry Minister, of its arrival, and on Their Excellencies the Prime the Foreign Minister, whom I am informing officially The Mission would wish to call on His Excellency and Commerce, the Minister of Communithe Minister of Finance, the Minister of

also highly appreciated if His Majesty the Emperor would accord an Audience to the Mission. would also venture to suggest that it would be

CE October, arriving in Hsinking between the leave occupy about ten days and that the Mission will then Japanese Industrialists. Tokyo on the 27th September. Their intention is to call Tatsuta members The for Maru on Mission Manchoukuo via of the Japanese IS the 13th September leaving H is expected Antung, about San Francisco Government that and arrives 10th this the and by and will 8th the on at

> England. in Hsinking, before returning to Japan for its return to 12th. The Mission would like to remain about one week

formalities on the arrival of the party. would be regarded as a compliment if the Customs also ventured to suggest, in my letter to him, that it reserve the necessary accommodation at the hotel, and I Authorities could be instructed to I have written to Mr. Kanki, asking him to kindly waive the usual

information sent by him don has informed me that he Tokyo, ticulars concerning the Mission to the Foreign Office in His Excellency the Japanese Ambassador in and I have no doubt that you will receive is sending full par-Lonthe

With kindest regards

Yours sincerely

K.Sakatani, Esq., The State Council,

五 日英外交関係

(signed)

17th July, 1934

Sir,

р മ constructional programme. whole, Manchoutikuo in the name of British Industry as a Government may require that the Federation of British Industries has organised view of making a friendly call on the Government of Mission to proceed to Japan and Manchoutikuo, with μ have the honour to report and to offer any assistance, or aid, which the in the development of its ð Your Excellency

Right Industry; and also a Director of one of the leading Federation; the Mission industrialists in President of the Federation and one of The Mission will be under the leadership Honourable will be Mr. G. Locock, the Director of the Mr. this country. <u>ب</u> ThePiggott, Lord representing The other members Barnby, the leading හ the of The former Steel of

> communicated to me. London Banks, whose name has not yet been

> > 274

General Affairs Board. Minister of Communications, Finance, the Minister of Industry and Commerce, Their Excellencies the Prime Minister, The Mission desires to call on yourself and also on and the Director of the the Minister of the

Emperor would accord an Audience to the Mission would be regarded as a privilege if His Majesty H would also suggest to Your Excellency that it the

Mission is necessarily styled an "unofficial" one of the British Government's commitment at Geneva, Your Excellency will fully understand that, in view the

Mission is proceeding and I am therefore forwarding think Excellency am awaiting instructions in regard Excellency that I should accompany the Mission and I н understand that it has been suggested it advisable, as soon as possible with the fact that the however, ಕ to this matter. I acquaint ъ Your Your

you may be sending. this despatch before the receipt of any instructions that

Excellency Mission I would of course make verbal report to Should I receive instructions to proceed with the of the full circumstances on my arrival Your

I have the honour to be

Sir,

Your obedient Servant

(Signed)

His Excellency

Mr. Hsieh Chieh-shih

Minister of Foreign Affairs

The Government of Manchoutikuo

Hsinking

編 注 送付された。 長より柳井(恒夫)亜細亜局第三課長宛に参考として 本書簡写は昭和九年八月八日に大橋満州国外交部次

275

(欄外記入) N 近來英國政治家、實業家等ノ間ニ日英及英滿關係ヲ改善 195  $\mathcal{V}$ 機密第四二七號 外務大臣 トスル運動次第ニ起リ來レル處英國有力實業家ヲ網羅セ 「フエデレー 日滿訪問英國實業「ミツシヨン」ニ關スル件 昭和九年八月四日 昭和9年8月4日 使節団帰国後の言動は英国世論を相当強く動 便宜を図るべき旨意見具申 かし得るため我が方において最大限の優遇と 付 記 廣田 -ション、 使節団派遣は今後の英国の対日満外交政策に 八月二十五日付磯谷(廉介)参謀本部第二部長 少なからざる影響を与えるとの在英国大使館 付武官報告書送付につい より東郷 (茂徳)欧亜局長宛 弘毅殿 在英 オブ、 広田外務大臣宛 特命全權大使 ブリテイシュ、 τ 松平 (8月28日接受) 恒雄 インダスト Ð セ

Scott 氏亦身體ニ故障アリテ旅行不可能ナル爲結局「エフ、 右「エフ、ビー、アイ」理事長「ローコツク」ハ「エドワー COLONEL LORD BARNBY, C.M.G., C.B.E., M.V.O., 顔觸ハ左ノ通決定セリ(アルフアベツト順) ビー、アイ」前會頭 Colonel Lord Barnby 氏團長タル 事上ノ都合ニテ實現困難トナリ現會頭 Lord Herbert 止トナリ其後 Sir Arthur Balfour 氏ヲ推サント テ最初 McGowan 氏ヲ推シタルモ同氏ハ事情アリテ沙汰 ン」トシテ日滿兩國ニ派遣スルノ計畫ヲ立テ先ツ團長トシ アイ」ヨリ代表的實業家數名ヲ「プライベート、ミツシヨ ヅ」ト話合ノ結果今囘日英及英滿親善ノ爲「エフ、ビー、 ニ決定シ團員ノ詮衡モ着々進行シ結局「ミツシヨン」 ス」ノ中ニモ右運動ニ乘氣ノ向生シ來リ本年春頃ヨリ -セルモ家 1 Э

Francis Willey & mercial Central tries; Director of Lloyd's Past President of the Federation of British Indus-Union Electricity Board; Assurance င<u>္ပ</u> Bank; Co., Director of Ltd., Director of the Partner the Comof

GUY LOCOCK, C.M.G

MR. JULIAN PIGGOTT, C.B.E. Director of the Federation of British Industries.

SIR CHARLES SELIGMAN, Director of the British Steel Export Association

Director of National Discount Co., ナリ) Vice Chairman (電報ニ Vice President トセルハ誤リ Director of Seligman Brothers, Ltd., Director and of Commercial Union Assurance Co.,

Mr.A.H.F. EDWARDES

望ニ依リ滿洲國側ノ承認アラハ同行ノ豫定ナリ 尙 Mr. A.H.F.Edwardes ハ「Hフ、ビー、 ア 1 側 1 希

「ミツシヨン」ナルモ他面之ヲ通シ日英及英滿ノ間ノ友誼 問スルコト」ニ在ル處本件「ミツシヨン」 財政カ如何ナル方面ニ於テ滿洲國ニ於ケル事業ニ協力シ得 會頭「スコツト」氏ヨリ本件ニ關スル正式申出トシテ本使 本「ミツシヨン」ノ目的ハ七月十六日「エフ、 1 ル ニ手交セル別添甲號寫書翰ニモ明ナル如ク「英國ノ實業及 親善關係ヲ助長スル爲日本實業家ト接觸スル爲日本ヲ訪 ヤヲ確ムル爲滿洲國ヲ訪問スルコト及日英兩國實業家間 ハ名目ハ ビー、 アイ 實業

一行ノ旅程ハ團長「バー セラルル次第ナリ ヨン」カ普通一遍ノ實業使節タルニ止マラサルコトヲ窺知 ニ關シ種々御斡旋アラセラレタル趣ニテ旁々本件「ミツシ ス」殿下ニ於カセラレテモ本件計畫ニ興味ヲ持タレ人選等 イ」最高「パトロン」トシテ「プリンス、オヴ、 等熱心ニ本計畫ヲ支持シ居ルノミナラス「エフ、ビー、ア Service ナル 國政府部内ニ於テモ大藏事務次官ニシテ Head of Civil 今次計畫披露セラルルヤ全員一致之ニ贊成シタル由ニテ當 イ」總會ニ於テ當國政府ノ全幅ノ支持アル旨ノ說明ヲ附シ 關係ノ促進ニ貢獻セントスルモノニシテ「エフ、ビー、ア Sir Warren Fisher 商務省當局、外務省當局 ンビー」卿ハ一足先キニ加奈陀 ウエール Ξ

ヲ代表スル團體、

日本銀行總裁及滿鐵東京支社等

ヲ

訪問シ度シ

(日本訪問ニ關シ「ミツシヨン」

ノ希望スル

所

シ

日

キ旨ヲ語リタルカ更ニ最近 Ξ 尙 對シ今囘ハ日滿各方面ノ人々ト充分意見ノ交換ヲ爲シタ 一行ノ豫定ニ關シ 「バ 1 ンビー」卿ハ七月二十八日本使 「ミツシヨン」 ノ内部ニ於テ協

> 議ノ結果ソノ希望ヲ別紙丙號ノ通「エド 方ニ内示シ來レリ卽チ ・ワー ヅ」 ヲ通シ 當

「一、東京ニ於テハ

(イ)總理大臣、外務大臣、 外務次官、 大藏大臣、

臣

陸軍大

海軍大臣及商工大臣等ニ會見ノ機會ヲ得度シ

(ロ)東京商工會議所、 日本商工會議所其他日本ノ實業界

且友好的ノモノタルヘク尙「ピゴツト」氏ハ「ミツ 英實業家間ノ友誼關係樹立ニ在リ右訪問ハ全然私的 シヨン」トハ全ク別ニ日本鐵鋼業者トノ會見ヲ希望

在リ「ミツシヨン」ハ軍事的又ハ政治的問題ヲ何等包 ト ニ

277

力

シノ

計畫遂行上必要ナルヘキ友誼的援助ヲ申出ツルコ **滿洲國政府ニ對シ友誼的訪問ヲ爲シ滿洲國政府** 

含スト認メラルヘキ施設計畫ノ

細目ニ關シ情報ヲ得ン

赴キ十月二十五日離日、

其後ハ

、思ヒ思ヒ

ノ行動ヲ採

N

由

テ

「ミツシヨン」

ノ意嚮ハ單ニ英國實業家全體ヲ代表

2

日本ヲ濟マシタル上滿洲ニ

三、滿洲國ニ於テ

シ居レリ)

田丸ニテ九月二十六日橫濱着、

向

ヒ米國ニ於テ一行ト落合セタル上九月十二日桑港發ノ龍

満洲國ニ於テハ一行ハ鄭總理大臣、謝外務大臣、 財トスル意嚮乃至希望ヲ全然有セサルコトヲ特ニ明言ス 側ニ於テハ一定ノ信用ノ下ニ特定ノ製品又ハ材料ヲ供 長及菱刈在滿日本大使等ヲ訪問シ度キ豫定ナリ尚英國 政部大臣、丁交通部大臣、 給スルノ問題ニ關シ關係官憲ト共ニ協議シ度キ意嚮ナ Ĺ 張實業部大臣、遠藤外務廳

得レハ「ミツシヨン」ノ當國出發ノ少シ前ニ當方ト打合ノ 追テ本件計畫ノ新聞發表ニ關シ先方ニテハ發表餘リニ早キ 爲其ノ點ハ變更アルヘシ)ト爲シ度キ旨申出アリタル經緯 上之ヲ爲シ度ク必要ニ應シテ發表スヘキ案文ハ別紙乙號寫 ニ失スルニ於テハ他國ニ先ンゼラルルノ虞アリトナシ出來 ノ通(其後「セリグマン」氏財政方面代表團員ニ確定セル 御承知ノ通ナリ

之ヲ要スルニ本「ミツシヨン」ハ當初「モーニング、 進メムトスル地均シトモ云フヘキモノナル處團長「バ ス スト」主筆 Gwynne, Fisher, Locock 等當國ニ於ケル ルニ至リタルモノニシテ云ハハ日英滿親善關係ニ一步ヲ (ノ間ニ話起リ各方面ノ支持ヲ得テ今囘其ノ實現ヲ見ント トン 親日 ポ 1

> 右卑見何等御參考迄ニ申添フ 他日ノ素地ヲ作リ置カルルコト必要ナリ 訓令ノ通ナルモ本件「ミツシヨン」 滿洲國皇帝ノ謁見ノ相協フ様御配慮ヲ得ハ好都合ナリ固ヨ 限リノ優遇ト便宜ヲ與ヘラレ出來得レハ天皇陛下ノ拜謁及 「ミツシヨン」成立ノ經緯ニモ鑑ミ我方ニ於テモ出來得ル 英國人ニ有リ勝チナル自畫自贊的老人的氣分ニ全然反對ナ 方極東問題ニ關シ何等偏見ヲ有セス新進氣鋭ノ人士ニシテ カケ來リタル機會ニ於テハ我方トシテモ喜ンテ之ヲ利用シ ニ付其ノ御含ヲ以テ愼重應對セラルルノ要アルヘク前記本 シテ老人連ノ忌諱ニ觸レタルコトアリ同氏及一行ノ歸國後 N リ我方ニ於テ滿洲國承認實現ヲ急クノ要ナキコト ノ言動ハ相當力强ク當國輿論ヲ動カスヘシトモ存セラルル 傾向ヲ有シ嘗テ米國視察後忌憚ナク英國ノ遣リ方ヲ批評 ノ如ク英國側ヨリ働キ ト思惟セラル ハ累次御

本信寫送附先 在滿大使

(別添甲号)

FEDERATION OF BRITISH INDUSTRIES

21, Tothill Street, London, S.W.1.

16th July, 1934.

Your Excellency,

interests in the development of that country. Industry sending a small Industrial Mission to Manchoukuo with a view to ascertaining in what directions British the Federation of British Industries are desirous of I have the honour to inform Your Excellency that and Finance could co-operate with local

relations between the industrialists of the two countries. Japanese interests, with the desire to establish cordial Japan in order to The Mission would also pay a courtesy visit to trust that we may enter into friendly relations with have Your Excellency's

support for this proposal Yokohama on September 26th, and should leave again If is proposed that the Mission should arrive at

> The following gentlemen will compose the Mission: Colonel Lord Barnby, C.M.G.,D.S.O.,

Partner of Francis Willey & Co of the Commercial Union Assurance Co.,Ltd.; tor of the Central Electricity Board; Director Past President of the Federation of British Industries; Director of Lloyd's Bank; Direc

Mr.Guy Locock,C.M.G.

Two other Members. Director of the Federation of British Industries.

I hope that in a short time I shall be Piggott,C.B.E., Director of the British Steel Export Association, to be one of these two An invitation has been addressed to Mr.Julian in a

We are also in Piggott is able to accept the invitation position to inform Your Excellency that Mr. touch with financial circles

financial experience, and here again I trust with a view to appointing a member with

279

on October

· 25th

ビー」卿ハ日本及支那ニ關シテハ何等知識ヲ有セサルモ他

☆認識諒解ノ如何ハ將來	ー觀察シ英本國ノ對日滿	>秘密使節ニ有之日本及	生以來英國政府當路者全	シテ錚々タル實業家數名	コリ仔細ニ紹介説明アル		戸末頃日本ニ到着致候豫	内ニ由リ八月末英國出發	兆(Lord Darnby)一行/
ト」紙ハ何レモ社説ヲ揭ケ右計畫ニ全幅ノ贊意ヲ表明シ視	ニ大々的ニ掲載サレ殊ニ「タイムス」紙「モーニングポス	英國産業聯盟ノ滿洲國産業經濟視察團派遣ハ十日倫敦各紙	特情 倫敦第一號	本 省 8月11日前着	ロンドン 発	使節団派遣に対し好意的な英国紙論調について	19		~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
2	81								

定ニ有之候 米國經由、日滿兩國視察ノ爲メ九月 **滿洲國顧問「エドワード」氏ノ案内** 英本國實業團代表「バーンベイ」卿(Lord Barnby)一行 參謀次長 植田 謙吉殿

滿 般 親交ニ資スルヲ目的ト 及其家族ニ過キサルモ實ハ事變發生 本一行ニ關シテハ外務省(大使館)ヨ モノト被存候カ名ハ寳業視察團ニシ 洲國ヲ深厚ナル同情ヲ以テ公平ニ ノ支持ノ下ニ派遣セラルル最初ノ ナス由ニ付其認識諒解

尚小官ノ氣付ニハ候モ現狀紹介ノ外「リツト 虚偽ヲ自覺反省セシムル諸般資料ノ準備並ニ蘇聯邦ノ不 ン」報告ノ

遺憾ナカラシムル樣願度此段申進候也 就テハ外務省(滿洲國及大使館)ト御協議ノ上其目的達成ニ ニ於ケル日滿ノ外交政策ニ影響鮮ナカラサル ヘク被存候ニ

東鄕 參謀本部第二部長 茂德殿 磯谷 廉介(印)

首題ノ件ニ關シ英國在勤帝國大使館附武官ヨリ別紙通リ 外務省歐亞局長 1

報告有之シニ付參考ノ爲送付申上候

英國實業視察團ニ關スル

件

昭 和九年七月拾七日

英國在勤帝國大使館附武官 安藤

利吉

利ト存候 信、脅威、

**滿洲國内ニ於テハ警備ハ充分御高配仰度本一行カ此政治** 

戰備等モ差支ナキ限リ理解セシメラルルヲ有

目的ヲ有スルコ

Ի

ハ絶對秘密ニ願度候

Ŧī. 日英外交関係

Believe me

Yours sincerely, HERBERT SCOTT

(Lord Herbert Scott) President.

His Excellency Tsuneo Matsudaira,G.C.V.O.

your Excellency.

I trust that these suggestions will be agreeable

5

cate chosen.

ç

you

the

name

of

the

gentleman

that very shortly I shall be able to communi-

May

I express the hope that Mr.A.H.F. Edwardes

Japanese Embassy,

37, Portman Square, W.1.

(欄外記入)

主管ヨリ宮内省及実業家ニ連絡

East would be greatly appreciated.

 $\mathbf{I}$ 

conclusion, it is suggested that no publication

and Japan would be of the greatest service to feel that his knowledge of conditions in Manchoukuo could be made available to accompany the Mission? I

the

Mission, and his presence during their stay in the Far

編 注 本件発表案文は七月二十日発在英国松平大使より広 号と同文のため省略。 田外務大臣宛第四一一号(第19文書)の別電第四一二

쥕 記 you are good enough to allow me to do so, I would like until shortly before the Mission leaves this country. If should be given to the proposal to despatch a Mission

and the terms in which the notice should be drawn up.

before publication to consult you, both as

to the

date

regard

Assuring

Your Excellency of my most profound

昭和九年八月二十五日 英國實業視察團ニ關ス N 件 (8月27日接受)

漢字紙報道振りについて	載シ「英商利ニ覺ク智ニ暗シ英邦日英ノ友誼ヲ懸念英官邊
上海 8月11日後発	默シテ私人行爲トス日本消息ヲ聞キ顧客我ヲ忘ル」(時事新
本省8月11日後着	報)「該團ハ完全ニ私人ノ行動ナリト專稱ス英政府モ政治的
第六四三號	意義無キヲ認ム僞滿商人ト關係無シ」(新聞報)「政府ハ終始
十一日ノ英漢字紙ハ一齊ニ英國實業團ノ滿洲國視察ニ關ス	國際聯盟ノ不承認主義ヲ遵守ス」(晨報)等ノ見出ヲ附シ聊
ル外國電報ヲ第一面ニ又ハ目拔ノ場所ニ大見出ヲ附シ(殊	カ焦慮ヲ示シ居レリ
ニ漢字紙)掲載シ居レリ	滿、北平、南京、奉天、哈爾賓へ轉電セリ
英字紙ハ倫敦九日及十日發路透(前者ハ同團內容後者ハ倫	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
敦諸新聞論調)東京十日發電通及聯合(後者ハ外務省「スポー	98 召口 9 年 8 月 10 日 在英国松平大使より
クスマン」カ「グレート、インテレスト」ヲ以テ本件報道	
ヲ迎ヘタル趣ヲ報ス)ヲ掲載シ British trade group seeks	日英および英満間の通商貿易促進を主目的と
outlet in "Manchoukuo", mission described as "private"	するとの使節団声明書発表について
enterprise; Gaimusho views trip with "great interest."	- ロンドン 発
(China Press) British mission to Manchoukuo; Possible	本 省 8月31日前着
co-operation in development.(North China Daily News)	特情 倫敦第四號
British industrial mission going to Manchoukuo (Shang-	產業視察團聲明

hai Times)等ノ見出ヲ附セ 方漢字紙ハ上記外電ノ外十日倫敦發「アバス」(倫敦新聞 IJ

チヤ

1

・ルス、

セリグマン」氏ノ名ヲ以テ次ノ如キ聲明書ヲ

英國產業聯盟ノ滿洲國調査團ハ廿九日倫敦出發ニ當リ

「サ

283

五 日英外交関係

使節団の日満派遣に対する中国英字紙および

論調)及「ユー、

ピ ー

」(本件カ私人ノ企ナル旨ヲ報ス)ヲ揭

「英國産業聯盟ノ視察團ハ單ニ滿洲ヲ視察スルダケデ無 殊産業部門代表間ノ專門的聯絡增進ノ地步ヲ作ルニ貢獻ス 察團ハ 兩國訪問後日英兩國產業家協調ノ必要ヲ力說シタ今囘ノ視 工業會社長「サー・ハリー・マクゴーアン」氏ハ過般日支 東以外ノ地域ニ於テモ重要ナ效果ガアルダラウ。帝國化學 要アル今日日英兩國間ノ諒解促進ヲ圖ルコトハ滿洲乃至極 言フ迄モ無イカラ此ノ意味ニ於テ視察團ガ日本ヲ訪問スル 在リ然モ滿洲國開發ノ爲メニハ日本トノ協力ガ必要ナノハ 業界ガ滿洲ノ開發トドノ程度迄協力出來ルカヲ確認スル 移民ガ續々流入スル實狀ニ在ル、視察團ノ目的ハ英國ノ産 賊ハ漸次抑制サレ苛税モ輕減サレ通貨ノ統一モ成リ支那ノ 土地肥沃デ天然資源ニ富ンデヰルガ最近日本ノ手ニヨリ匪 日本ヲ訪問日本當業界トノ友誼增進ヲ圖ル方針ダ、滿洲 テヰル、「タイムス」紙社説ノ要旨左ノ通リ 察團ノ日本訪問ガ重要ナル意義ヲ持ツテ居ルコトヲ强調シ ル ノハ機宜ノ處置デアル、各國間ニ於ケル産業競爭緩和ノ必 デアラウ」 「マクゴーアン」氏ガ考慮シテ居ル様ニ日英兩國特 Ξ ハ ク テ曰ク ル

紙ハ滿洲國市場ノ重要性ヲ說イ 197 昭 和9年8月11 Π

更ニ「モーニングポスト」

ラウ」 易ニ對スル日本ノ脅威ガ誇張サレ日本ノ友情ガ東洋ニ於ケ 本ヲ訪問シ日英兩國ノ友誼增進ヲ圖ル筈ダ、現在英國ノ貿 第一四半期ニ於テ二萬磅ニ過ギズ今囘ノ視察團派遣ハ滿洲 割前ヲ排除スル程狹量デハナイ、 者タルハ已ムヲ得ナイガ日本ハ滿洲國ノ貿易ニ關シ他國ノ 地理的ソノ他ノ關係カラ日本ガ滿洲國ノ主要顧客且ツ供給 利益ヲ享受シ天然資源ニ惠マレテ迅速ナ經濟的發展ヲ遂ゲ 國市場ノ開拓ニ絶好ノ機會ヲ與ヘルダラウ更ニ視察團 ハ事實上處女地ダ、滿洲國ニ對スル英國ヨリノ輸出ハ本年 ツツアリ從ツテ同國ノ外國貿易モ漸次增進スルデアラウ、 ニ立脚シ兩國ニ對シ政治上及ビ經濟上ノ利益ヲ齎ラスデア リ、然ルニ今囘ノ視察團派遣ハ日英兩國ノ友情促進ノ精神 「混亂ト匪賊トニ惱マサレタ滿洲國ハ今ヤ統制アル 英國ノ權益保持ニ最モ重要ナ事實ガ閑却サレテヰル傾ア 英國ノ關スル限リ滿洲國 政 い日日 府 1

広田外務大臣宛(電報) 在中国有吉公使より

發表シタ	本省ニ於テモ本件視察團一行ニ對シ出來得ル限リ歡待致度
「産業經濟視察團ノ主タル目的ハ日本及新興滿洲國ト英國	考ヲ以テ諸般ノ準備ヲ進メ特ニ十月一日ニハ天皇陛下謁見
、戸見系ニ貨)目貨,図推ニ条貨スレコ、カアラフ、三頁トノ間ニかクバ避府貿易隊役ノ伐逃ラ圓パニ在!手舎一彳	を図た吏欠言ヲ灰方ン 今回/ 「ミツンヨン一承貴ニ褐ン邓 乃税久宮午餐等戸ス耳言置キタノ威左ニ陽耶ミナ月二十日
氣ト希望トヲ以テ釿期ノ目的ニ邁進スルテアラウ、カクシース「不派多:雪」本雪、巨掌:ミネニノ:ニンニンニュー	說 - 明
トノ通商貿易ノ	ハセ支
タロウコトヲ疑ハナイ、視	<u> </u>
タカ日本政府當局及實業團ニ於テハ一行ノ訪問ヲ歡迎シ且	テ一行ノ謁見ノ儀ハ多少躊躇シ居ル旨並ニ不得已ハ拝謁ハ
進ンテ一行ノ援助ヲ與ヘラレルトノコトテアル、一行ハ日	一行滿洲ヨリ歸來後ニ願度旨語リタル趣ナルヲ以テ當方ニ
本ニ於テ新ニ實業家同志ノ接觸ヲ圖リ日英兩國ノ貿易關係	於テハ右ノ謁見ハ取止メト致シ秩父宮午餐ノミ取計フコト
增進ニ資スル覺悟テアル、一行ノ全旅程ハ三ケ月以上ニ上	トセリ右御參考迄
ル見込タカ目的達成次第歸國スルテアラウ」	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
	200 昭和9年10月1日(在満州国菱刈大使、在英国松平大使、広田外務大臣より
19. 昭和 9. 年 2. 日 在英国松平大使宛 (電報)	晩餐会での我が方大臣使節団歓迎の辞および
使節団の天皇への謁見見合わせ事情について	同団長挨拶について
本 省 9月26日後6時発	亞三普通合第一四一二號
第二七九號	昭和九年拾月壹日
貴電第四六〇號ニ關シ	外務大臣 廣田 弘毅
在英國特命全權大吏。公平 亙進酘在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆殿	has cast a shadow on our visit, and we feel deeply for all those who have suffered sadness and loss through
在哈爾賓總領事 森島 守人殿	this catastrophe.
在奉天總領事 蜂谷 輝雄殿	On behalf of my colleagues of the British
英國產業聯盟視察團來朝ニ關スル件	Industrial Mission, and, indeed, on behalf of British
英國産業視察團一行豫定ノ通九月二十七日來朝シタル處二	Industry generally, I have to thank you today very
十八日晩餐會ニ於ケル本大臣ノ歡迎ノ辭(別紙甲號)ニ對ス	sincerely for the kindly welcome you have extended to
ル團長「バーンビイ」卿ノ挨拶ハ本件視察團渡來ノ目的並	us. We appreciate very deeply the honour which has
ニー行ノ本邦ニ對スル感情等ヲ表示スルモノトシテ興味ア	been shown to us by this banquet. Long before we
リト認メラルルニ付右挨拶寫一部(別紙乙號)何等御參考迄	reached the shores of Japan we knew by repute the
ニ別添送附ス	genius of the Japanese race for kindly hospitality, and
本信宛先 在滿大使、奉天、哈爾賓、在英大使	tonight we are experiencing a particularly charming
(川氏、1字)	the welcome you give to visitors.
	Before we left England I was often asked what was

your Excellency and the people of Japan, at the recent those I represent express my deepest sympathy with Typhoon which has swept your country. This disaster Your Excellencies and Gentlemen, Before any other words I must on behalf of all

with which Great Britain has long had cordial and respect and friendliness to the industry of a country this visit to your country is to make a gesture of ed. I said then, and I repeat it now, that the object of the object of our visit to Japan and what we represent-/as

that industry from any connection with politics. I do claim, however, intimate relations. unchangeable friendly represent the mass of the people in my country whose claim furthermore, that in addition to representing the Great Britain, who has not forgotten the past which Industries no political connections, since the Federation of British represent the industrialists of Great Britain. We have we and Great Britain feelings of my can speak for the ordinary business man IS. an entirely business organisation, country, we, as individual Englishmen, towards As for what we stand for, we Japan have shared in are traditional common. I free and ц.

Your Excellencies and Gentlemen, there is much which unites our two countries. Unfortunately, there is one fact which makes it difficult for us to know each other as well as we should, and that is the fact that we are geographically so far apart. I am one of those who believe that we are only on the threshold of rapid

> transit by air, and I trust that before we are much older there will be so rapid a means of communication between Great Britain and Japan as will enable the inhabitants of both countries to visit each other more frequently than they have in the past. We shall look forward to receiving more visitors of all classes from your country, and to seeing our fellow-subjects visiting Japan in increasing numbers.

> > 286

But although distance separates us, there is much which we have in common which should unite our hearts, even if our bodies be far distant.

Your country is one which shares a great privilege in common with mine. We both have the highest respect and veneration for the Throne and the monarch who occupies it. In these days of rapid change I venture to say that happy indeed is the country which pays loyal and devoted allegiance to its Sovereign.

It is sometimes said as a reproach against the British that they pay too much attention to tradition.

should from do you are able to draw the best both from the past our essential traditions unmodified, that our practice are essential to our future wellbeing. But we are no that the qualities which have made our country made about you. I cannot help feeling that such If the same impression about your country, Short as has been my time in Japan, I have obtained blind followers of tradition. criticisms ignore the value of tradition. In England we may be that you in Japan have similar criticisms attach importance to tradition because we believe the present. meet the changing conditions We believe, while keeping of namely, the world. great that and

Then again, you, like ourselves, are an island Empire. You realise what the sea means, just as we do, for it is in our blood. Indeed, we Englishmen cannot but recall with gratitude and affection the co-operation given to us by your great Navy during the War.

Finally, we are both great industrial and trading

nations. It is interesting to know that of all the great industrial nations of the world, it has only been Japan and Great Britain which during the last year or so have been able to improve their position and to increase their trade. We have the highest admiration for all that you have done in Japan, and we even venture to claim that what we have done in Great Britain has been no small task in view of the difficulties which have faced us during the last few years.

Б possibility of co-operation thinking of another aspect of business life, namely, friendliness enough for both to prosper. Competition there must be cannot refrain from saying that the world seems arise between Japan and Great Britain. It is my intention tonight to deal with such questions, but I business, It may be that from time to time trade difficulties nor does it but that neither debar business means р men from no part of lack large the of

Your Excellencies and gentlemen, on behalf of

	テ外務省ニモ奉職セル事アリF、B、I、ノ理事長ノ格ニ	日英實業家間ノ「グツド、ウイル、ミツシヨン」トナシ又
	ル人ニ候又「ローコツク」ハ今囘一行ノ中心トナリ居リ曾	他國ニ先シテF、B、I、ノ有力ナル視察團ヲ送リ表面ハ
	次男ニテ我國ニ生レタル人ニ有之製鋼界ニ於テ將來有望ナ	ヲナシ居リ外務省及商務省等ノ要路トモ聯絡ヲトリ此ノ際
	故伊藤公ノ顧問タリシ「サー、フランシス、ピゴツト」ノ	國承認問題ニ熱心ナル英人間ニ於テ昨年末來寄リ寄リ協議
	善ニ極メテ熱心ニ努力シ居ル「ピゴツト」少將ノ弟ニシテ	上候通リ今囘實業團派遣ノ動機ハ豫テ日英親善增進及滿洲
	有之候又「ピゴツト」ハ我國ニ豫テヨリ好感ヲ有シ日英親	一二ノ點ニ付キ申上置候大体ハ累次ノ電信及公文ヲ以テ申
	ハ 屢々旅行シ英國人ノ獨尊主義ニハ寧ロ反感ヲ有スル人ニ	日ニ讓リ本書ニ於テハ今囘派遣ノ英國實業團一行ニ關シ内々
	モ臆セス卒直ナル言ヲナス人ニ有之從來加奈陀、米國等ニ	シ致候他ニ申上度キ事多々有之候ヘ共取急キ居リ候ニ付他
	ンビー」卿ノ如キハ極メテ新進氣鋭ノ士ニテ何レノ方面ニ	御就任以來種々重要ナル問題有之定メシ御心痛ノ事ト御察
	矢張ソノ方針ヲ以テ出張ニ決心シタル次第ニテ殊ニ「バー	拜啓時下益々御清榮ノ段奉賀候
		(別 添)
	本信宛先 在滿大使、奉天、哈爾賓	二 作成日不明、松嶋(鹿夫)書記官私見
	書翰寫一部貴官限リノ御含迄別添送附ス	「英國實業視察團啓發要領(滿洲國ニ關スル分)」
	スル指導啓發上參考トナル點尠カラスト認メラルルニ付右	付記一 九月二十六日付、亜細亜局第三課作成
	國産業視察團ニ關シ通報アリタル處右ハ同視察團一行ニ對	使の私信回付について
	今般在英松平大使ヨリ本大臣宛私信ヲ以テ目下來朝中ノ英	使節団の政治的意義などに関する松平英国大
	英國産業視察團渡滿ニ關スル件	田利二名 1 J
	在哈爾賓總領事 森島 守人殿	
	在奉天總領事 蜂谷 輝雄殿	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
	在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆殿	you for the honour which you have done us today.
	外務大臣 廣田 弘毅	Again, Your Excellencies and Gentlemen, I thank
	昭和九年拾月壹日	ourselves fortunate.
	亞三機密合第一四一三號	more fully than in the past, we shall indeed consider
	告書送付について	countries understanding each other's point of view
	び協力を提議するとの在英国大使館付武官報	contribute in any way to the business men of the two
	使節団が対中国政策に関する日英間諒解およ	many friends. If the result of our Mission should
	郷欧亜局長宛	learn much, and above all, I hope that we shall make
	三 九月二十八日付磯谷参謀本部第二部長より東	you have given us. While we are in Japan we shall
28	交ニ對スル新工作ノ必要」	reception tonight and for the kindly welcome which
8	「滿洲視察英國實業團ノ渡來ニ際シ我通商外	British Industry I have again to thank you for your

マン」等ハ本邦ニ關シ何等ノ知識ヲ有セサルモ今囘ノ視察 右視察團中團長「バーンビー」卿、 論ヲ促進スル事ニ存スル様存セラレ候 「チヤ 1 ルス、 セ ŋ グ

ニシテ彼等ノ想像スルカ如クハ歸國ノ上ハ滿洲國承認ノ輿 ヲ攻究シ又滿洲國ニ關シテハ一行視察ノ上若シ同國ノ狀況 見ノ交換ヲナシ日英親善關係ヲ今一步增進セシムヘキ方法 ムルニ存スルモソノ裏面ニハ我國ニ於テ各方面ノ人々ト意

面及一般輿論ニ對シ不尠效果ヲ齎ラスヘキハ申ス迄モナキ シメ且腹藏ナキ意見ヲ交換スルニ於テハ歸來後當國官憲方 國側ニ於テ十分ノ好意ヲ示メシ又卒直ニ我方施設ヲ見聞セ 右様ノ次第ニ付キ若シ今囘ノ視察團一行ニ對シ我方及滿洲 テ今囘計畫ニハ最初ヨリ參加シ日英親善ニモ豫テヨリ腐心 シ居ル人ニ有之候

ハ

**滿洲ニ於ケル我國ト英國側企業ノ協力ノ能否ヲ視察セシ** 

儀ト存セラレ候之ニ反シ彼等ニ對シ多少ニテモ狐疑ノ態度

ヲ示シ又我方ニ於テ今囘ノ視察團カ餘計ナル企圖ナリト考

洲國ノ經濟的發展ハ顯著ナルモノアルヘシ	い併セテ滿洲延テハ支那其ノ他ノ市場ニ於ケル日英資本家
立直リ	ヤヲ大局的ニ觀察シ
的原因ニ基クモノトヲ區別シテ考スルノ要アリ今後地方	コーク (四右可能性アリトスル場合滿洲國ノ門戶ハ開放セラルヘキ
等ノ現象ニ付テハ滿洲自体ニ其ノ原因存スルモノト世界	文 ル可能性ヲ抱藏スルヤ又
界的不況ノ結果農民ノ困窮相當大ナルモノアリト雖モ之	☆ 要スルニ今後滿洲國ハ英國ノ資本乃至産業ニ對シ如何ナ
ニ亘ル洪水ノ被害ニ加フルニ特産物(大豆)ノ暴落乃至世	(1今直チニ具体的投資ノ目的ヲ物色セントスルニハ非ス、
四建國早々ノ際トテ未タ整ハサル點多ク又一昨年以來二囘	ニ求メントスル所ハ
リテイー」ヲ研究スルヲ可トス	儀禮的訪問ヲ行フ」ト言フニ在リ、察スルニ一行ノ滿洲國
ヘク寧ロ遠大ナル見地ヨリ同國將來ノ經濟的「ポツシビ	キヤヲ調査シ併セテ日本實業家ト親善關係ヲ結フ爲日本ニ
物ヲ探索セントスルカ如キハ却ツテ失望ヲ招クコトアル	ノ爲英國ノ資本乃至工業カ如何ナル方面ニ於テ協力シ得へ
臼滿洲國視察ニ當リテハ今直チニ商品賣込又ハ投資ノ對象	今次渡來ノ英國實業視察團ノ標榜スル目的ハ「滿洲國開發
レタル「滿洲國」ヲ想起スル者ノ驚嘆スル所ナルヘシ	(亞、三、九、九、二六)
其ノ顯著ナル發達ハ、例ヘハ「リツトン」報告書ニ描カ	英國實業視察團啓發要領(滿洲國ニ關スル分)
□滿洲國ハ建國以來僅ニニケ年半ヲ經タルニ過キサルカ、	(付記一)
朝野一致ノ既定國策ナリ	
(−満洲國ノ獨立國トシテノ健全ナル發達ヲ助長スルハ日本	廣田 外務大臣殿
導啓發ハ大体左記要領ニ依リ之ヲ行フコト可然ト認メラル	松平 恒雄
セントスルニ在リト見ルヲ妥當トスヘク旁々之ニ對スル指	昭和九年八月二十九日
協調ノ可能性ヲ打診	重光次官へモ右御開示ヲ煩度候
内密ノ御含トシテ申上候 敬具	支那ニ於ケル日英ノ行動ニ關シ相互ニ豫メ腹藏ナキ意見ノ
キ右榜ノ場合ニハ御腹﨟ナク貴镸ラ御開関柜成榜致良務メ	/ 東洋ニかクルE支技技ノ鵀純士協終ノ女キ班トシラ將外
ヨリ之ニ類スルカ如キ事ヲ申出スルヤモ測リ知レサルニ付	、東京にシーン目は温濃、露角になり、コージ・シーチン・ル際偶々日英親善關係增進ノ形式ニ付キ話出テーグイン」
!ノ滯在中或ハソレト	ワー
何等關係シ居ラサル事	イツシヤー」、一モーニング、ポスト」主筆「グイン」「エ
ヲ案出スル方安全ナリト思考スル旨述へ置キタリ之等ノ案	件ニ最初ヨリ盡力シ居ル
ト思ハル然ル後更ニ進ンテ日英親善ノ「フオーミユラー」	上豫メ御作成相成
ルカ如キ良好ナル結果ヲ齎ラサルルカ如キ事最モ肝要ナリ	豫定ハ最初約十日間本邦滯在ニ付キ一行ノ「プログラム」
野ノ各方面ト充分接觸セラレ歸國後日本一般國民カ滿足ス	椰楡ヲ書キ立テ居リ候本視察團ノ滯在日數ハ余リ長カラス(ま)
ヲ示サレ例ヘハ今囘ノ「ミツシヨン」ニ付テハ一行カ我朝	ルモノト見ェ勞働黨系新聞等ニ於テハ本件ニ關シ皮肉、
ロ當面ノ急トシテハ英國側ニ於テ出來得ル限リ日本ニ好意	本件發表後支那、露西亞方面ニ於テハ相當神經ヲ惱マシ居
メノ計畫ナルカ如キ誤解ヲ生セシムル虞無キニシモ非ス寧	ニ極秘)之等ノ事情又御含置相成度候
其ノ内心ニ疑ヲ抱キ恰モ我方ノ行動ノ自由ヲ束縛センカ爲	動ニハ大ナル興味ヲ以テ注意セラルル趣ニ有之(此ノ邊特
際直ニカクノ如キ協約締結ヲ英國側ヨリ申出ラルルモ或ハ	關シ皇帝陛下ヨリモ御手紙ヲ辱シ陛下ニハ今囘ノ一行ノ行
支那ニ於ケル我行動ノ自由ニ付强硬論者モ不尠ニ付キ此ノ	長「ハーバー、スコツト」卿ノ内話スル所ニヨレハ本件ニ
國ニ對シテハ我朝野ノ一部ニ狐疑ヲ抱ク者相當有之又昨今	長選定ニ斡旋セラレタル内情アリ又過日現F、B、I、會
ハ右ニ關シテハ日本政府ノ意嚮ハ全然承知シ居ラサルモ英	且又本件ニ關シテハ「プリンス、オブ、ウエールス」モ團
イツシヤー」モ此ノ事ハ豫メ考へ居ルモノト思ハル)本使	ラサルニ付此點ハ申迄モナキ事乍ラ十分御注意相成度候
交換ヲナスカ如キハ如何ト申出タルニ付(「ウオーレン、フ	ヘ居ルカ如キ印象ヲ彼等ニ與フルニ於テハ其結果ハ面白カ

290

ノ涵養思想精神ノ作興ニ努メサル

ベカラズ

、脱却シ以テ外ハ國際的和衷協同ノ本義ニ戻リ内

1、民力

五 日英外交関係

セラル、

斯クテハ我國ハ日一日ト深淵ニ引摺ラレ行

ロクノミニ

シ ノミ ۲ [三方

テ

此際眞ニ我國ヲ救ハムト

セハ速ニ外交上孤立無援

ノ域ヨ

況ンヤ明年ノ海軍會議ニ關シテハ本邦ト英米トノ

間

稱

ナ

'n.

針上至大ノ間隔アルカ如ク安協ノ餘地極メテ少ナシ

一方日滿對蘇國ノ關係ハ日々惡化ノ兆アル

和八年ノ アルモ本邦輸出貿易ノ顯著ナル躍進ヲ遂ケタリトス 於テハ必スヤ一陽來復ノ春ヲ迎へ得ヘシト樂觀スル 價 以上諸國ニ於ケル本邦品 ノ邦品ハ必スヤ終局ノ勝利ヲ得ヘク徐ロニ陰忍 本邦輸出貿易額ヲ見ヨ、 ノ排斥ニ對 成程圓價ニ依 シ世上多クハ N 價額 にスル 良質廉 N モ 昭 1 ハ 

報ノ示セル所ナリ 居ルコトハ極メテ明瞭ニシテ又米國大統領カ南中米諸國 ス所ニシテ外交上ノミナラス經濟上ニモ本邦ヲ孤立無援 米ノ示唆ト此等諸國カ本邦ヲ見クヒリ居レル事實トノ致 對シ不合理ナル制限ヲ加ヘツツアルコトト云ヒ何レモ英 度其他中南米ノ諸國迄モ綿製品ト云ハス諸種ノ本邦品ニ 品ニ對シ極端ナル制限制度ヲ實行セルコトト云ヒ蘭領印 間會商ノ決裂直後英國カ其直轄殖民地全部ニ於テ我綿製 ヲ爲ササリシモ現下ノ實情ヲ見ルニ事實上本邦ヲ封鎖セ 國際聯盟ニ於テハ本邦ニ對シ經濟封鎖ヲ實行スル ニ對シ本邦人及本邦商品 ヘク現ニ今囘ノ日蘭會商ニ於テ蘭側カ英國ノ示唆ヲ受ケ ノ域ニ陷レムトシツツアルコトヲ如實ニ示スモノト云フ ムトスルノ具体的事實頻々トシテ續出シツツアリ日英民 ノ排斥ヲ慫慂シ居レ  $\mathcal{N}$ ハ 情報電 ノ決議

「ブラジル」國ニ於ケル我移民ノ排斥、米國ノ蘇國承認、 事每ニ我ニ逆フノ態度ヲ採ルニ至レリ日印條約ノ廢棄 シモ事情ニ通ゼサル雷同者ナラズシテ均シク實感スル所ク現下我國ハ實ニ重大ナル危機ニ直面セリト云フハ必ス 本邦商品ニ對スル世界的防遏等其ノ好例ニシテ之ニ類ス キ軍縮會議ノ成否如何ニ依リ更ニ一層ノ熾烈サヲ加フベ ルモノ枚擧ニ遑アラズ而シテ此趨勢ハ明年開催セラル 西歐諸國ノ蘇國トノ接近、蘇國ノ蘇滿國境ニ對スル威嚇、 シモ爾來諸國ニ於テハ本邦ガ孤立無援ノ狀況ナルニ乘シ ニ對スル制裁トシテ經濟封鎖ヲ實行スル迄ニハ至ラサ べ ij

ハ二對一米國ノ夫レ _____ 五對 ニナル Ξ 對 ハ 五ジ

至日本ヲ非難スルモノアリ彼等ノ非難ハ夫々本國ニ傳ヘ ラレ時々問題ト爲リ居ル模様ナルカ本件ニ關シテハ左記 門戶開放機會均等ノ下ニ於テ良質廉價 ノ物カ高價 テ 利ハ年四分ナリキ、

ノ事情ヲ考慮スルヲ要ス

閉鎖シツツアルモ滿洲ニ於テハ然ラス N ハ日本ノ安キ物ニ對シ dumping ノ理由ニ依リ門戶 日本ノ安キ物ニ對シ dumping ノ理由ニ依リ門戶ヲ、物ニ勝ツハ當然ノコトナリ、世界ノ他ノ部分ニ於テ

論ナリ)、 結果良質廉價ナル日本商品カ自然的發展ヲ遂クル 間ニ乘シテ第三國商人カ幸運ナル進出ヲ遂ケタル 滿洲舊政權ハ極端ナル排日政策ヲ取リタル 事變後ハ此ノ種人爲的障碍撤去セラレ カ(コ 夕 ハ 勿 至ル 1

内容ハ英米等ノ外國品ナルモノ多々アリ(即チ事變後 リタルハ理ノ當然ナリ 統計上日本ノ對滿輸出ト -シテ現ハ N N モ 1 モ 其 T

英米等ノ商品ニシテ日本人ノ手ヲ通シ滿洲國ニ入ル ノ激増セリ) モ

英國(印度香港ヲ含ム)ノ夫レ 日本ノ對滿輸出輸入ノ比率ハ

> 對 ニ ナリ

**伍近來滿洲國ノ門戶開放ニ關シ在滿外國商人間ニ滿洲國乃** 

ホ 第ナリ 利ノ資金潤澤ナルコトヲ記憶スルヲ要ス、現ニ滿洲國 ニハ少クトモ其ノ金利ハ四分以下ナルコト 月前東京ニ於テ一千萬圓ノ公債ヲ募集シタルカ其ノ金 政府ハ新京及哈爾賓兩都市ノ建設事業資金トシテ數ケ 對滿投資ノ問題ニ關シテモ日本ノ金融市場ニハ低金 卽チ外國ノ對滿借款カ成立スル爲 ・ヲ要ス N 次

世界ニ於テ親密ナル協調ノ關係ヲ保ツハ我方ノ歡迎スル 等ト充分懇談アル 所ニシテ其ノ協調ノ具体的方法調査ノ爲ニハ日本實業家 コト可然 、ナラス

(欄外記入) (付記二)

**滿洲視察英國實業團ノ渡來ニ際シ我通商外** 對スル新工作ノ必要 交 

|、滿洲事變以後ニ於ケル我國外交上ノ孤 立

名實共ニ孤立無援ノ域ニ陷レ **滿洲事變ニ伴フ本邦ノ國際聯盟脫退ノ結果ハ我國** タリ國際聯盟ニ於テハ本邦 ヲ シテ

**三戰**前 ネルギ 約十九億ニ近ク景氣良好ナリシ昭和四年當時ニ略匹敵ス 滅ニ向ハシムト云フノ外ナシ 象ヲ呈スルニ至レリ換言スレハ本邦内地ノ國富乃至 モ 以テスル我輸出貿易ハ昭和四年ニ比シ僅ニ三七%ナレ 象ヲ呈スルニ至レリ換言スレハ本邦内地ノ國富乃至「エニ拘ハラス物資ノ流出ハ極メテ旺盛ナルノ不自然ナル現 ノニ非ス卽チ近來ノ我輸出貿易ハ金ノ收受極メテ少ナキ ト シ居ラス而シテ右昭和八年ノ輸出額ヲ金ヲ以テ換算スル ルモ本邦内地ニ於ケル物價ハ右昭和四年ニ比シ左迄上騰 ノ如キ現象ノ永キニ亘リ繼續スル 其ノ輸出分量ニ至リテハ決シテ昭和四年ト大差アル キ 如ク内地ニ於ケル物價ハ左迄高騰シ居ラサルカ爲金 ニ於ケル獨逸ノ轍ヲ覆ム勿 ハ昭和四年ノ貿易額ノ僅ニ三七%ニ過キス然ニ上記 1 現象ノ永キニ亘リ繼續スルコトハ實ニ國運ヲ衰」ノ無償流出又ハ濫費ノ行ハレ居ルモノニシテ V モ ト ヲ

近時本邦工業ノ發展ト邦品ノ海外躍進トニ對シ英國カ大國ノ對獨宣戰トナリタルハ普ク世人ノ知悉スル所ナルカ擴張ノ競爭トナリ遂ニ大陸ニ於ケル戰端開始ヲ機會ニ英歐洲戰前ニ於ケル獨逸工業ノ旺盛ト對外輸出貿易ノ急激

2、國際協調 / 要 樣ヲ異ニスルヲ以テ他國ヲ糾合シテ我ニ當ル 逸ハ白人國ナルモ本邦ハ異人種ナルカ上ニ生活文化ノ態 謂死物狂ヒトナリ更ニ惡辣ナルモノアルヘク加フルニ獨 見込全然無之狀況ナルヲ以テ本邦ニ對シ弄スル手段ハ所 以テ多少自尊心ノアルアリシモ現在ニ於テハ最早向上ノ 在ノ如キ頽勢ニ在ラスシテ尚向上ノ餘力ヲ有シタリシヲ 戰前英國カ獨逸ニ對シタル當時ニ於テハ英國ノ工業ハ チ我船舶ノ航路乃至入港ヲモ制限セムトシ來ルヘ 努メ居レルモ軈テ其他ノ諸品一切ニ及フヘク更ニ海運卽 火ヲ覩ルヨリモ明ニシテ目下主トシテ我綿製品ノ防遏ニ カ有ユル手段ヲ以テ我輸出貿易ノ防遏ニ出テ來ル Ξ ノ受ケタルモノヨリモ更ニ深刻ナルモノアルヘ 合好カルヘキヲ以テ本邦ノ被ムルヘキ實害ノ程度ハ 焦慮シ居レル ハ恰モ戰前ニ獨逸ニ對スルト酷似ス英國 ニ極メテ都 シ シ へキ 獨逸 現 ハ 294

約締結ハ誠ニ機宜ニ適スル措置ト思考セラレタルモ今ハ急務ナルヲ痛感ス然ラハ其ノ途如何、蘇國トノ不可侵條立無援ノ域ヨリ脫シ他國ト協調シ以テ現下ノ危機匡救ノ斯ク觀察シ來レハ吾人ハ一日モ速ニ方針ヲ確立シ我國孤

輓近一兩年我輸出貿易ノ異常ナル躍進ニ脅威ヲ感シタル然ラハ何レノ國ヲ求ムヘキヤ」の「大ラム客年佛國ニ於テ對滿投資ノ氣運釀生シニ囘ニ亘リナラム客年佛國ニ於テ對滿投資ノ氣運釀生シニ囘ニ亘リ既ニ遲シ獨トノ提携ハ却テ危機ヲ增大スルニ資スルノミ

毛 日英經濟會商ト英國ト 推移ス ス 然 爭ヲサヘ誘發スルナキヤヲ憂ヘシムルカ如キ事態 ヲ擧クルコト必スシモ困難ナリトセス然ラ 目ニ起因スル ト 英國産業界ハ躍氣トナリ本邦品排撃ノ世界的宣傳ト防衛 ニ當リ現下ノ情勢ハ恰モ日英經濟戰爭ノ觀ヲ呈シ此儘 N V 現下ノ經濟的反目ヲ癒スル ト ル モ現在ノ日英ノ疎隔ハ上記ノ如ク經濟的利害 ニ於テハ遂ニ感情ノ疎隔トナリ日英ノ武 ヲ以テ之ヲ調和スルニ於テハ兩國融和 ・ノ提携 ノ途 アリ ヤ ハ 日英間 力的抗 ト Ξ ナ 1 1 反 有 實 v

所ナリ若シ滿洲事變前ノ如ク我對支輸出貿易ガ三億五千ヒタルカ爲一層激烈ヲ加フルニ至レルハ何人モ疑ハサル世界市場ニ於ケル日英兩國ノ爭覇ハ本邦ガ支那市場ヲ失

相互ノ妥協ヲ求ムルコト不可能ナリ故ニ先ツ右二點ノ能究シ其ノ可能ナルコトノ見控付クニ非レバ初メヨリ日英那ニ於ケル英國品ノ賣行ニ影響ヲ與フルコトナキヤヲ探シテ支那市場ヲ確保シ得ルノ途アリヤ更ニ又之ニ依リ支然レトモ排日運動ノ猶絶エサル現時ニ於テ本邦商品ガ果競爭力ハ著シク緩和セラルベシ

萬圓以上ノ額ヲ占ムルニ於テハ

他ノ市場ニ於ケル

邦品

1

否ヲ研究スベシ

⊖排日運動抑止ノ方法 旣成 自身ニ不利ナルコトハ支那朝野ノ均シク知悉スル 至滿支ニ於ケル我政策ニ反對セザル 認スルノ點迄ハ進マズトモ本邦ト提携セム 居レルハ列國ガ滿洲國不承認ノ方針ヲ固執シ共同シテ 元來支那ガ滿洲事變ニ關聯シ今猶日貨ノ排斥 N モノアルニ於テ ノ信念ニ基クモノ多シ若シ一大强國ニシテ滿洲國ヲ承 本邦ニ當ラムト ヲ以テ列强 1 、事實 トシテ之ヲ諦ムルニ至ル ノ對日共同戰線ノ破レ ハ支那官民ハ滿洲國 スルノ方策ヲ堅持シ居レリト ベシト 9 ベシ排日貨 7 ĩ 獨立ニ對シ最早 事實ヲ看取ス ・ノ意ヲ示ス ト ・ノ意嚮乃 ラ續行 ノ支那側 (ノ支那 處ナ 2

帝國ノ對支行動ヲ拘束スル意味ニハ無之飽迄對支諸施設ニ	編 注 松嶋は昭和九年六月一日付で通商局第二課長に任じ
諸施設ニ關シ日英諒解協力」ノ希望ヲ抱懷シ決シ	
ル政治的後援ヲ有スルモノニ有之候處彼等ハ	松島書記官私見
ンビイ」卿一行ノ日滿實業視察團ハ英本國ニ於ケル有力ナ	(欄外記入)
昭和九年七月拾七日英雜秘 第四二號 ヲ以テ申進メ候「バー	
參謀次長 杉山 元殿	ノ爲誠ニ欣賀スベキ所ト信ズ
昭和九年八月二十三日 英國在勤帝國大使館附武官	明年ノ危機ヲモ無事ニ通過スルコトヲ得ベク國家百年
英國產業聯盟調査團ニ關スル件	提携スルコトヲ得バ外交上ノ孤立無援ノ域ヨリ脫却シ
(別 紙)	種努力ニ依リ現下ノ日英兩國ノ經濟的抗爭ヲ除却シ相
	有利ナルコトヲ感得セシムルニ努ムルコトヲ要ス幸此
首題ノ件別紙ノ通	右諸項ノ諒解ニ依リ日英提携ノ途アリ且提携ノ相互ニ
英國產業聯盟調査團ニ關スル件通牒	故ニ今次來朝スベキ英國視察團ニ對シテハ夫レトナク
₩外務省歐亞局長殿	等ハ其ノ骨子ナルベシ
3. 昭和九年九月二十八日 参謀本部 第二部長	۴
(付記三)	(4)滿洲ニ於テ英國ノ活動ニ對シ相當ノ利益ヲ與フルコ
	進ヲ日英會商ノ上相當抑制スルモ差支ナキコト
	(3)以上ヲ條件トシテ第三國市場ニ於ケル日本商品ノ躍
その官職については欄外記入のとおり書記官とした。	計ラムトスルモノナルコト
られているが、本私案は作成日が不明であるため、	ノ購買力向上ニ當リ之ニ依リ日本商品ノ對支進出ヲ
	ノ購買力ヲ先ッ向上セシメサルベカラス而シテ之カ向
	春日フィニア リニアノ ティミット・コノー・フ
ノ對滿支政策ヲ支援スルコト	力ハ著シク低減シ居リ我商品ノ進出ノ爲ニハ支那民衆
(1)英國ノ利益ニ反スルモノニアラサル限リ英國ハ日本	ル現狀ヲ見ルニ民衆ノ疲弊甚シキモノアリテ爲ニ購買
之ヲ求ムルニ途アルベク而シテ	耳ヲ藉スコトナカルベキハ勿論ナリ今支那内地ニ於ケ
共榮必スシモ難事ナラス卽チ兩國經濟上ノ利害調節ハ	支貿易ニ累ヲ及ホスモノナルニ於テハ英國固ヨリ之ニ
ヲ阻止スルコト必スシモ不可能ナラズ日英兩國産業ノ	若シ上述⑴ニ揭クル我對支輸出貿易ノ好轉ガ英國ノ對
斯ク考察シ來レバ海外市場ニ於ケル日英經濟抗爭ハ之	ホスヤ
需要ヲモ增加スルノ結果ヲ生スルヤモ知レズ	□支那ニ對スル我商品ノ進出ハ英國ノ對支貿易ニ累ヲ及
セサルモノニシテ寧ロ此種購買力ノ增加ハ英國商品ノ	サルベカラス
ノ販路ヲ侵スモノニ非ズ從テ英國産業ノ利益ト相反目	直接這般ノ事情ヲ感得セシムルニ最モ好機ナリト云ハ
ノ向上ニ因ルモノナルヲ以テ英國商品ノ把持スル旣有	今次英國實業家視察團ノ來朝ハ英國實業界ノ有力者ニ
スベシ我商品ニ對スル此種需要ノ增加ハ新ナル購買力	意思ノ表現トニ依リ容易ニ之ヲ期待スルコトヲ得ヘシ
設ヲ行ヒ以テ民衆ノ購買力ヲ增加シ我商品ノ需要ヲ促	政策及對支政策ニ對スル友好的諒解ト之ヲ支持スベキ
日氣勢ノ一掃セラルルニ於テハ該地方ニ對シ同様ノ施	ニ於ケル日英抗爭ノ緩和ハ之ヲ英國側ニ於ケル我對滿
其成績漸次良好ナラムトス若シ夫レ中南支ニ於ケル排	換言スレバ我商品ノ支那進出ヲ促シ且支那以外ノ市場

動一度其勢ヲ潛ムルニ於テハ我資本ノ進出ハ決シテ困上ハ我資本ニ依ル對民衆授産事業ノ推進ニアリ排日運

其他ニ依リ我ハ漸次支那民衆ニ對スル授産事業ヲ拓キ

難ナラス既ニ現ニ山東及北支地方ニ於テハ棉花ノ栽培

民地ニ於テ英國品ト競爭ノ必要ハ大ニ削減セラルベシテ支那ニ對スル我輸出貿易囘復ノ上ハ第三國乃至英殖ベク自然我對支輸出貿易上一轉面ヲ開キ得ヘシ斯クシルニ於テハ最早不利ナル排日貨ヲ固持スルモノナカル

「エ」ヨリ雇傭契約	論英國朝野ニ向ツテ深刻ナル失望ヲ與フヘキニ付出來
2	國スルニ於テハ支那ノ逆宣傳ニ乘セラルヘキノ:「系ニトラー」京ニノネニュロンイミ系
チニゴニ寸外務省及蓙軍省ニ連各ン丙省ニペテ开宅中ニテモ今直チニ約束スル譯ニハ行カスト答へ置キタルカ一方直	之ヲ顧氰スルコト無ク出發ヒリ优テヽ告ン本圂ケ可等爲ス行ツテ何ノ役ニ立ツヘキヤト嘲笑シテ本企圖ヲ妨害セルモ
實現ニ努力ハ	公使郭泰祺ハ視察團カ此際完全ニ門戶ヲ閉鎖セル滿洲國ニ
カ表面的ニハ必要ナリト答ヘタルニ付本官ハ其ノ程度ノモ	キモ皇太子自ラ行ハレタル様ノ次第ナル處出發ニ際シ支那
居ルモ滿鐵ノ内諾ヲ得タル上滿洲國ヨリ右書面ヲ貰フコト	テ日英間ノ親善ニ資センカ爲メ具体化シ視察團ノ人選ノ如
港モ皆滿鐵ニ委托シアリト云ヘルニ「エ」ハ夫レハ承知シ	シ(此ノ點極秘)是ニ依リ日滿英間ノ經濟關係ヲ緊密化シ以
ドメモアール」案ヲ提出シタルニ付本官ハ鐵道モ胡蘆島築((新さ)	囘ノ企圖ハ日英間ノ關係ヲ顧念セラルル皇帝ノ御意圖ヲ体
然ルヘク宣傳シテ本團ノ面目ヲ保ツヲ得ヘシト述ヘ「エイ	於テモ日英同盟復活ヲ唱フルモノ漸次增加ノ傾向ナルカ今
イドメモアール」ヲ與ヘラレタクサスレハ歸英後右ニ基キ	共ニ保守黨ヲ始メ其ノ他ノ黨派ニ於テモ又新聞雜誌ノ上ニ
見合致スルニ於テハ賣込ノ機會ヲ與フヘシトノ趣旨ノ「エ	的ニ之ヲ是正スヘシトノ聲旺ナルノミナラス蘇聯ノ復活ト
島ノ築港材料等ヲ價格並ニ「クレデイツト」等ノ點ニ付意	對日政策就中滿洲問題ノ處置ヲ誤リタルコトヲ痛感シ根本
洲國ハ將來英國產業ニ對シ滿洲國鐵道ノ輪轉材料若ハ胡蘆	ハ三日出發前本官ニ對シ英國ハ近來華府會議以後ニ於ケル
ハ困難ナルヘキニ付此ノ際滿洲國總務廳若ハ外交部ヨリ滿	洲國ニ於テモ成ルヘク親切ニ取扱ハレタキ處「エドワーヅ」
ノ渡來カ少シ早キニ失シタル爲メ具体的ノ仕事ヲ得ルコト	日本當局ハ英國實業團ノ使命ヲ重視シ種々接待中ナレハ滿
カ東京着以來各方面ト接觸シテ得タル印象ニ依レハ自分等	大橋ヨリ神吉へ左ノ通リ
百萬磅位ノ「クレデイツト」ニ依ル英國品賣込)自分(「エ」)	第一〇〇五號
ル限リ本團滯滿中何等カノ具体的成果ヲ得度キモ(例ヘハ	本 省 10月5日後5時発
二 右覚書案和訳文	満州国皇帝より使節団への賜餐取計方訓令
付記一 右覚書案	石満州国袤★
C	20 昭和9年10月3日 広田外務大臣より
国より使節団への覚書案エドワーズより提議	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
英国の対満投資参画の具体策に言及した満州	二十八日参謀本部鈴木大佐ヨリ受
203 昭和9年10月5日 在満州国菱刈大使宛(電報)	(欄外記入)
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	以上
可然御取計相成度	リ候ニ付對外國策遂行上此機運ヲ看過セサル樣希望致候
國政府ニ電報シタル趣ナルニ付テハ右御含ノ上本件實現方	英國識者ノ對日觀念ハ現實ニ卽シ近時大ニ好轉ヲ示シ來
與ヘラル、コト機宜ニ適スト認メラレ大橋次長ヨリ其旨本	セントスル意圖モ包含スルヤニ察セラレ申候
リ一行貴地滯在中出來得レハ滿洲國皇帝ヨリ同樣ノ光榮ヲ	政治的ニモ東洋平和ノ確保竝日英支ノ協同利益擁護ニ資
ハ秩父宮殿下ヨリ午餐ニ御召ノ光榮ニ浴シ居ル次第ニモア	對支諸施設トハ投資其他經濟關係ヲ
平大使來信ニ據リ充分御了知ノ通ナル處本邦ニ於テモ一行	ヲ提議スヘシ
一四一三號公信ヲ以テ送附ノ	電報セサル趣ナルモ一行ハ日本ニ於テ有力ナル當局者ニ對ニュニノ製ない男・ンス和智測剤が加加するインダインタイスイン
吏 。	反答ヲ與ヽス又必密屚曳ヲ蠢リ本牛ヲ外務本省(4)。 副言之性言な がたいちょうせい しんしょう しょうしょう しょうしょう しんしょう しんしょう しょうしょう しょう
貴電第一一五六號ニ關シ	シ來リ候モ、事重大眞重考慮ヲ要スル次第ニ付大使ハ勿論習 糸糸糸 ラE専ノ魚そネリーシル意見 ラれコ ブ化ジチ酸
i i i i i i i i i	ナリトシ比意見ヲ公平大吏乞具
本 省 10月3日後6時0分発	劦力シテ其實效ヲ期スル爲事前ニ相互ニ了解ニ到達スル樣

	lated later.
(付記一)	The opportunity for British Industry to collaborate
Suggested Aide-Memoire	can form the subject of negotiations at a later date and
from General Affairs Board	is of course subject to mutual agreement as to price
The Government of Manchoukuo is very grateful	and credit.
to the British Mission for its visit to this country and	
for the offer from British Industry to collaborate in the	(付記二)
work of development, an offer which is deeply appreciat-	滿洲國政府ハ英國視察團カ我國ヲ訪問シテ我國開發ノ事業
ed by the Government.	ニ英國産業ノ協力センコトヲ提議シタルヲ感謝ス殊ニ右協
The programme of constructional development is	力ノ提議ハ政府ノ深ク多トスル所ナリ
still being considered and the priority of the work to be	建設事業ノ プログラム ハ目下考究中ニシテ何ヲ先トシ何ヲ
done is not yet decided.	後トスヘキヤモ亦未定ナリ
The Government, however, has at the moment two	然レトモ政府ハ現在二箇ノ案件ヲ考慮中ナリ卽チ第一ハ我
special matters under consideration. The first is the	國鐵道ニ對スル輪轉材料ノ供給ニシテ第二ハ胡蘆島築港ノ
supply of rolling stock to our railways, and the second	建設ナリ而シテ政府ハ英國産業ニ對シ是等事業ニ參加スル
is the construction of the harbour at Hulutao, and the	機會ヲ與フル用意アリ是等事業ノ詳細ハ目下研究中ニシテ
Government is prepared to offer to British Industry an	後日決定セラルヘシ
	·
ノ交渉ニ待ツヘク尤モ右カ價格及 クレディット ノ點ニ付キ英國産業ニ對シ如何ニシテ協力ノ機會ヲ與フヘキヤハ後日	20 昭和9年10月8日 在満州国菱刈大使苑(電報)
双方ノ合意アルヲ條件トスルコト勿論ナリ	エドワーズ覚書案に示された鉄道・港湾事業
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	は満鉄へ委任済のため同事業への英国資本参
204 昭和9年10月5日 広田外務大臣宛(電報) 在満州国菱刈大使より	本省10月8日後7時発画の約言は不可能との陸軍側見解について
我が方皇室における使節団への賜餐振り照会	第一〇一五號
について	往電第一〇〇五號ニ關シ
新京 10月5日後発	大橋ヨリ神吉ニ左ノ通リ
本省10月5日後着	陸軍側ハ覺書中ニ滿洲國カ既ニ滿鐵ニ委任シアル鐵道港灣
第一一八八號	ニ付約言ヲ與フルハ不可ナリトノ結論ニ達シタル趣ナルニ
貴電第九九七號ニ關シ(英國產業視察團渡滿ノ件)	付テハ此際ハ總務廳又ハ外交部ヨリ何等具体的事業ヲ指示
視察團一行ノ使命ノ重要性ニ付テハ累次ノ通報ニ基キ篤ト	スルコト無ク只將來建設計畫進行中ニ於テ英國產業ノ共力
説明シ置ケルカ軍側ニ於テハ秩父宮殿下カ御名代トシテ一	ヲ必要トスル場合ニハ條件如何ニ依リテハ共力ヲ御願スル
行ヲ午餐ニ召サレタルモノナラハ滿洲國側モ賜餐差支ナカ	コトアルヘキ旨抽象的ノ文書ヲ與フル等ノ方法ナラハ陸軍
ルヘキモ然ラサル場合ニハ不適當ナリトノ意嚮ヲ有シ居リ	當局ニモ異存無キ次第ニ付關東軍トモ連絡ノ上然ルヘク御
□ 殿下ヨリ午餐ヲ賜ハリタル時ノ事情殊ニ殿下ノ御資格ニ關	措置アリタク尙同團カ滿鐵側ト接觸スル場合滿鐵ヨリモ先
シー應照會	方ノ面目ノ立チ得ル様應答ヲ爲ス様日本當局ノ斡旋方依賴
アリ何分ノ儀至急御囘電アリ度シ	中ニ付御含置アリタシ

工 口苦从六朋友

301

300

of which are under consideration and will be formuopportunity to participate in these matters, the details

付「エ」着京ノ上ハ更新アリタシ

シ差支無キ旨答ヘタルカ外務當局ニ於テモ右ニ贊成ナルニ

the members of the Federation of British Industries
Mission, now visiting Japan and Manchuria, would
greatly appreciate the honour of being received in
Audience by His Imperial Majesty the Emperor upon
their return to Japan from Manchuria about October
20th. The names of the members of the Mission are as
Colonel the Right Honourable Lord Barnby, C.M.G.,
C.B.E.,M.V.O., Past President of the Federation of Brit-
ish Industries.
Sir Charles Seligman, Senior Director of Seligman
Brothers, Ltd., Bankers; Vice-Chairman, Commercial
Union Assurance Company, Director, National Dis-
count Company.
Mr. Guy Locock, C.M.G., Director of the Federa-
tion of British Industries.
右会見録
新 京 10月13日後発
本 省 10月13日後着
第一二一二號(極秘扱)
貴電第一〇一五號ニ關シ(英國産業視察團ノ件)
谷參事官ヨリ
視察團一行ハ豫定ノ通十日當地着各其ノ專門ニ從ヒ當局者
ト意見ヲ交換特ニ「ロウコツク」及「エドワーズ」ハ豫テ
同人等ノ希望シ居タル「エード、メモアール」ノ件ニ付努
力中ナリシ處本官ハ「エドワーズ」等ニ對シ今般ノ視察團
ハ單ナル利權屋ト異リ日英滿三國間ノ親善一般經濟提携ニ
關スル重要ナル使命ヲ有スルモノナルヲ以テ各地有力ナル
實業家等ト隔意無キ意見ヲ交換シ健實ニ其ノ目的達成ニ關
付焦ル場合ニハ日ベ則トシテモ之カ决定困難ナルヘク又視スル地步ヲ築クコト必要ニシテ餘リ早急ニ具体的約束等ニ
察團自身トシテモ失望スルカ如キ結果トナルヘキヲ以テ此
ノ點充分考慮セラレ度キ旨ヲ述ヘ又滿洲國軍方面ニ對シテ
ハ現在强イテ英國ノ經濟的援助ヲ求ムル必要無カルヘキモ

昭和9年10月8日

在満州国菱刈大使宛(電報)広田外務大臣より

No.156.

October 9 th, 1934.

302

Your Excellency,

置キタルカ一方「ロ」「エ」兩人ハ矢田、 望ヲ容レ或ル種ノ約束ヲ與フルコトノ望マシキ次第ヲ說キ 軍縮會議後ニ於ケル對英外交工作上或ル程度迄視察團ノ希 行ニ之ヲ交附シ滿洲國側ニ於テハ 大使ノ了解ヲモ得タルヲ以テ十三日矢田、 電第一二一三號ノ如キ會見錄ヲ作成スルコトニ意見一致シ 來示ノ趣旨ニ從ヒ鐵道等ノ具体的辭句ニ觸ルルコト無キ別 宇佐美、坂谷、 十二日大使官邸ニ於ケル一行招待晩餐會後參謀長、遠藤、 坂谷ハ抽象的ノモノト爲スコトヲ主張シタル趣ナルカ結局 相當具体的事項ヲ記載シタル提案ヲ爲シタルニ對シ矢田、 ノ署名セル同文ヲ受領セル趣ナリ 矢田、本官等視察團側ト協議ノ結果豫テ御 團長タル「バーンビー」 坂谷ト會談ノ際 坂谷署名ノ上一

すべき てぎって香てを 厚へか ぎー 守卜を居ります 言意アリ度シ

アリタリ。尚本電ノ次第ヲ大橋次長ニ傳ヘラレ度キ旨外交部ヨリ申出

(別電)

## No. 1213, (極秘扱)

Lord Barnby at a meeting with the authorities in Manchoukuo, offered the collaboration of British (Industry) Industy in the development of this State.

In reply, he received an assurance that the principle of Blitish collaboration in the development of Manchoukuo was definitely accepted.

and substantial Ħ. Manchoukuo, subject to mutual agreement as various Government of Manchoukuo, detail to terms of payment. Concrete proposals are now being considered by the development participation of the Mission in due course, work which is British which will be , with a Industry in contemplated submitted view to prices to a the ц.

desirable for the cooperation of both sides, that the It authorities was also understood between of Manchoukuo, that the Mission it IS. Great most and

Britain should buy in future, more of the agricultural products of Manchoukuo, and the Mission is prepared to use its goods offices to assist the Manchoukuo authorities in this respect.

谷參事官ヨリ 第 208 ____ 昭 和9年10月13日 得たいとの使節団意向について 満州国への英国資本投資につき具体的成果を 付記一 四號 = 十月二日付、 売買契約履行に 昭和十年六月八日発在満州国南(次郎)大使よ 「英國產業視察團ニ關スル谷參事官談話要領」 り広田外務大臣宛電報第五四四号 広田外務大臣宛(電報) 在満州国菱刈大使より 作成局課不明 つき回電方稟請 本 新 省 京 10月13日後着 10月13日後発

旨語リタルニ付本官ハ今直ニ斯ノ如キコト

ヲ決定スル

コト

Ĩ

依

ハ頗ル困難ナル事情アルヲ以テ赴日ノ上日本當局等ト相談

爲若シ希望アラハ 尙一行ハ本官ニ對シテモ頻リニ前記具体的 團ト協議スル様申送ラレ度キコト等ヲ述ヘタルヲ以テ大使 當地ニ居殘ルモ差支無キコト(ミヤギハ居殘ラサルコトト 持歸ルニアラサレ リ是非何等カ具体的ノモノ(something concrete)ヲ本國ニ ケル或ル方面ヨリノ反對ヲ無視シテ來滿シタル事情等ニ依 シコトニ對シ失望シタル旨ヲ述ヘ視察團トシテハ本國ニ於 テハ常ニ一般的抽象論ニ終始シ何等具体的申出ニ接セサリ 大使ト懇談ヲ求メ其ノ際當地ニ於ケル諸要人ト ナレリ)及大使ヨリ改メテ重光次官ニ對シ赴日後篤ト視察 ハ之ヲ了承セル旨語リ置カレタル趣ナリ 「ローコツク」及「エドワー ハ苦境ニ陷ルヘキコトヲ力説シ右協議ノ ノモノヲ得度キ ズ」 ノ對談 ノ兩名 Ξ 於

十二日英國產業視察團招待晩餐會後

ウ

コ

ック」ハ特

=

英國産業視察團ニ關スル谷參事官談話要領

(付記一)

リセ

御承知ノ上一行着京ノ際然ルヘク御指導相成度ラレタキ旨述へ置キタルニ付委細往電第一二一二號

3	三、十月十四日附滿洲日報カ同國トノ間ニ商取引及投資契約	持セラレ居ルモ其門前ニ日本ノ番兵立チ居ルヲ以テ滿洲
07	ナルヲ以テ政治問題ニ付テモ隔意ナキ意見ヲ承リ度	、 滿洲國ノ實情ニ付忌憚ナク云ヘハ大体門戶開放主義ハ維
	實ハ御承知ノ通英國內親日滿系ノ輿論ヲ体シ來レルモノ	官ニ内話セル處御參考迄左ノ通
	視察團ハ外部ニハ飽ク迄經濟的使節ナリト發表シ居ルモ	英國實業視察團ノ當館管内視察中「ピゴツト」等ノ當館係
	スルニ拘ラス之ヲ排除スル理由ヲ發見スルニ苦シム英國	英國實業視察團ノ感想ニ關スル件
	滿洲國モ列國ヨリ承認ヲ受クレハ其國際的地位ヲ强固ニ	特命全權大使 菱刈 隆殿
	シム處ナリ日本ハ其國際的孤立ニ飽キ居ル所ナルヘク又	在滿洲國
	ラルルヲ欲セストノ意見ヲ聞キタルカ右ハ余ノ理解ニ苦	總領事 蜂谷 輝雄
	リ殊ニ新京ニ於テ一高官ヨリ滿洲國ハ外國ニ依リ承認セ	在奉天
	二當地方官民ニ於テ何等承認論ヲ聞カサリシハ意外ノ事ナ	昭和九年十月十六日
	トスヘシ	機密第八九三號
	以テ日本トシテハ却テ英國ト何等カ協定ニ達スルヲ得策	
	移センカ其結果日本商品反對ノ感情ヲ増スニ過キサルヲ	一、英國實業視察團ノ感想ニ關スル件
	本商品ハ其廉價ヲ以テ世界ヲ風靡シ居ルモ此ノ儘ニテ推	件名
	他面右協定ニ政治的條件ヲ附スルモ差支無キ意嚮ナリ日	機密第八九三號 昭和力年十月十六日附 菱刈大使宛往信寫送附
	英國民ハ一面右ノ如キ協定ニ達スルヲ希望シ居ルト共ニ	日日に三十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
	定スルヲ得ハ兩國友好關係ノ維持上最モ好都合ナルヘシ	總領事蜂谷輝雄(印)
	ノ地域ニ於テ日英兩國商品ノ種別ニ基ク販路ノ區分ヲ協	在奉天
	國ニ對スル英國商權ノ擴張ハ望ミ薄ナリ寧ロ滿洲國以外	昭和九年十月十六日
	機密第九二五號 (10月20日接受)	第五四四號
	英満間でのクレジット設定方について	本 省 昭和10年6月8日後着
	団員セリグマン会談要旨	新 京 昭和10年6月8日前発
	<b>付 記</b> 十月一日、東洋経済新報主筆石橋湛山・使節	(付記二)
	内話について	
	州国クレジット設定方などに関する使節団員	ト思考スル旨語リタル趣ナリ)
	満州国門戸開放、満州国承認問題および対満	モノニテモ提供アラハ英國視察團ニ多大ノ滿足ヲ與フヘシ
	20 昭和 9 年 11 月 11 日 広田外務大臣宛	(尙「エドワーヅ」ハ谷参事官ニ對シ此ノ際一千萬圓位ノ
		國ハ電氣機械ノ如キモノヲモ欲シ居ル模様ナリ、云々
	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	幸次郎氏トモ御相談アルコト可然、松方氏ノ話ニ據レハ露
	談ノ上至急御囘電ヲ請フ	ルトスルモ一千萬圓ハ片附クヘシ、此ノ問題ニ付テハ松方
	シトノコトナリシニ付テハ本件其ノ後ノ成行加藤氏ト御會	機關車等ヲ必要トスヘク、例ヘハ機關車一〇〇臺ヲ供與ス
	リ先方ノ意嚮判明スヘク其ノ上ニテ種々研究ノ餘地アルヘ	ヲ英國ニ振リ向クルコト面白カルヘシ、露國ハ鐵道車輛及
	餘地アリヤヲ尋ネタル處四月下旬蘇聯邦係官ノ東京着ニ依	圓程ハ如何ニスルモ外國品轉賣ノ方法ニ據ラサルヲ得ス之
	補償中ニ英國當業者ヲシテ何等カノ形ニ於テ參加セシムル	テ對露實物給附約一億圓ノ中其ノ三分ノ一卽チ三千五百萬
	「バーンビーミツシヨン」當時ノ經緯ニ鑑ミ北鐵關係物的	實業家曰ク、ソレハ有リ、例ヘハ北鐵交渉成立ノ結果トシ
	過般小生滯京中坂谷君ノ手紙ニ接シ三菱加藤恭平氏ニ對シ	シ何カ同團体ニ與フヘキモノナキヤト訊ネタルニ對シ、同
306	矢田参議及坂谷前次長ニ左ノ通リ御傳ヘヲ請フ (@*)	本日某有力實業家ニ出會ヒタル際、英國産業視察團ニ言及
6	重光次官へ谷ヨリ	(昭九、一〇、二)

(付 記)

(付箋)

SIR CHARLES SELIGMAN of the Federation of British Industries Mission to Japan and Manchoukuo in interview at the Imperial Hotel Oct. 1, 1934

with

MR. TANZAN ISHIBASHI

Editor The Oriental Economist Not for Publication

<u>Ishibashi</u> — I shall be most pleased to give my impartial view on any subject on the realm of finance and economics of Japan and Manchoukuo. On what particular subject are you interested to discuss?

<u>Seligman</u> - I am keenly interested to know whether Japan can undertake the Manchoukuo development unaided by foreign capital.

by of London is in no position to grant long term loans to Seligman needed foreign capital is England ready to supply that? important that its capital needs can no longer be met agricultural country and it will be quite some time help for the present. before industrial development there Ishibashi Japan. However, - Japan certainly can without any outside Under the existing circumstances, in the event that Manchoukuo Manchoukuo essentially will become the sı. City an SO

them need merchandise requirements for which Great Britain is credits. For the present Manchoukuo has no particular Manchoukuo against which Japan provide sufficient practically Ishibashi - For some while Manchoukuo may not be in take on the nature of credits of several year's duration. vances can be made renewable at expiration, they may security or bank guarantee of payment. As these adtransactions, three or six months credit against good Manchoukuo, of such advances from England as she can freely from Japan. every but it can advance, as purely banking item of Japan just now supplies merchandise wanted by get

<u>Seligman</u> - Suppose a loan of 30 years becomes accessible to Manchoukuo what will she do with it?

the only source of supply.

<u>Ishibashi</u> — That may enable her embark upon further development work such as elaborating railway and highway net works all over the region when of necessity industrial expansion and acceleration will follow.The

> loan may prove the means of opening up markets there for British products, for building materials and so forth. Do you think there is some possibility of Manchoukuo getting loans when such proves really the case ?

<u>Seligman</u> - There is no law in force which prohibits British underwriting foreign loans, but the Chancellor of the Exchequer discourages investing British capital abroad for it is needed for building up industries at home.

<u>Ishibashi</u> - Granting loans to foreign nations is necessary if only for the interests of England and for those of her industries for every new loan which England thus grant to a foreign country will be a new purchasing power created for British goods.

<u>Seligman</u> – British resumption of international financing activity is not feasible until tariff walls are lowered in every country, particularly in the United States, to allow a freer interchange of merchandise between

n and	発電に出した。 A main main main main main main main main	式いから 高島 式一氏	萬藏氏 有賀 長文氏 As	井坂 孝氏 門野重九郎氏	本 側	シー・ジェームス氏	ガイ・ロコック氏 ジュリアン・ピゴット氏	バーンビー卿 チャーレス・セリグマン卿 昭和九年十月二十三日	國 側 スルコトニ同意シタリ	下度右御報告迄得貴意候 敬具 や ア度右御報告迄得貴意候 も なり や 、 の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	紙ノ通共同聲明書ヲ作成發表スル運ヒト相成候間御諒承被 尚ホ吾人ハ日英兩國	員會設置ニ就キ昨夜鄕男爵邸ニ於テ左記諸氏會談ノ結果別 ヲ望ム	拜啓陳者豫テ御承知願上居候日英通商問題ヲ考究スヘキ委 英國産業聯盟ガ東京p	通商局長 來栖 三郎殿	理事(高島)誠一(日英兩國ノ商工業ニ重要ナル利害關係アル	日本經濟聯盟會 ル結果主義トシテ左記	昭和九年十月廿四日 日本實業界有志及ビ英國實業團員ハ
the Federation of British Industries	on, it was agreed in principle that it is	and Commerce and the Briti	the result of cordial discussions between leaders		フランシス・バーンビー	鄕 誠 之 助	東京ニ於テ	-二日	,	滯ナク上記ノ精神ニ基ク計畫ヲ實行スルヤウ兩團體ニ提案	尚ホ吾人ハ日英兩國通商上ノ相互的利益ノ爲メ兩團體ガ遲		英國産業聯盟ガ東京及ビ倫敦ニ各々委員會ヲ設置センコト	ヲ交換シ其安當ナル解決ヲ期スル爲メ日本經濟聯盟會及ビ	聖要ナル利害關係アル諸問題ニ付意見	シテ左記意見ニ一致シタリ	天國實業團員ハ隔意ナキ懇談ヲ遂ゲタ

nature without delay, in the interest of mutually beneeration and the Federation of British Industries should ficial trade relations between Japan and Great Britain. be recommended to put into practice a scheme of this It was further agreed that the Japan Economic Fed-

FRANCIS BARNBY SEINOSUKE GOH

Tokyo, the 23rd October, 1934.

昭和9年10月29日 在英国松平大使宛(電報)広田外務大臣より

211

英国資本の対満投資問題に関する使節団と Ø

折衝ぶりについ τ

第三〇六號

本 省 10月29日前9時50分発

> 洲國側ニ懇請シタル處我方トシテハ出來得ル限リ右希望達 次長ニ對シ英滿經濟提携ニ付此ノ際何等カノ具体的成果 英國視察團來朝ノ當時「エドワー 此ノ點充分考慮ノ要アル旨ヲ說キ置キタル處結局十月十三 地步ヲ築クコト必要ニシテ餘リ早急ニ具体的約束等ニ付焦 要ナル使命ヲ有スルモノナルヲ以テ各地有力ナル實業家等 權屋ト異リ日英滿三國間ノ親善及一般經濟提携ニ關スル重 成方斡旋スル一方一行ニ對シテハ今般ノ視察團ハ單ナル利 「ロウコツク」及「エドワーヅ」ヨリ同様ノ趣旨ヲ以テ滿 右希望達成方配慮スル様奔走ノ次第アリ次テ一行滯滿中 熱心ニ申出テ大橋次長モ當方ト協議ノ上滿洲國政府ニ對シ 日滿洲國側ト視察團トノ間ニ在滿大使來電第一二一三號ノ ル場合ニハ滿洲國側トシテモ之カ決定困難ナルヘキヲ以テ ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ遂ケ健實ニ其ノ目的達成ニ關スル (例へハ一千萬圓程度ノ信用ニ依ル英國品賣込)ヲ得度旨ヲ 如キ會見錄ヲ作成交換スルニ至レ ッ ハ折柄滯京中ノ大橋

迄ニハ至ラサリシモ原則トシテ將來出來得ル限リ英滿間 右會見錄ハ何等具体的ニ英國品ノ購入等ニ付約束ヲ與フル 經濟的提携ニ關シ協力スヘキコト ヲ約シタル ハ滿洲國カ視 1

別電ト共ニ在歐各大使、在米大使及紐育ニ暗送アリ(醫共) 結局將來機會アル每ニ提携スヘキコトヲ申合セタル趣ナリ 申出テラレ度旨ヲ告ケタル處視察團側ニ於テモ充分了解シ ヲ加フル キアリ)同社トシテハ本件英國側ノ希望ニ充分好意的考慮 英國品ハ百五十七圓ナルニ付一萬頓ニツキ五十七萬圓ノ開 頗ル困難ナル事判明シタルニ依リ右事情ヲ詳細ニ說明スル 購入ノ方途ヲ購セムトシタルモ目下ノ爲替關係ニテハ實現(譬?) 材料ヨリ小ハペン先ニ至ル迄調査ヲ遂ケ何トカシテ英國品 キ意見ヲ交換シタルカ滿鐵側ニ於テハ大ハ各種機械、鐵道 尙一行ハ大連ニ於テ滿鐵側トモ英國品賣込方ニ關シ腹藏無 爲シタルモノト認メ一行トシテハ大体滿足シ居ル模様ナリ 察團ヲ通シ英國ニ對シ「フレンドリー、ヂエスチヤ 共ニ(例へハ ノ用意アルニ付何ナリトモ具体的事項ニ付希望ヲ 「レール」一噸ニ付日本品百圓ナルニ對シ 度 i J J

212

昭

和9年10月29日

會々長ト「バンビー」 於テハ十月二十四日日英協議會設立方ニ關シ我經濟聯盟協 英國産業家ノ協力方ニ關スル會見錄ヲ作成署名シ又東京ニ 旬加奈陀經由歸國ノ筈)滿洲國ニ於テハ滿洲開發ニ關スル 卿及「セリングマン」ハ二十六日夫々米國及加奈陀經由ニ テ歸途ニ就ケリ(「ヒゴツト」ハ上海方面ヲ視察シ十一月初 ヲ遂ケ「ローコツク」「エドワーズ」ハ二十五日 一、視察團一行ハ來着以來連日朝野有力者ト面談及工場視察 往電第二七九號ニ關シ 第三〇八號 どについ 使節団の日満視察の成果および今後の課題な τ 卿ト 在英国松平大使宛(電報)広田外務大臣より ノ共同聲明書ヲ發表シ一行トシ 本 省 10月29日後12時45分発 「バンビー」

注 書)の別電第一二一三号と同内容と思われ 本件別電は見当らないが、十月十三日付在満州国菱 |大使より広田外務大臣宛電報第一二|二号(第20文 る

五 日英外交関係

編

313

ーバ

一、今囘ノ一行ニ對シテハ朝野共ニ歡待ヲ盡シタルカ爲

卿以下孰レモ大ニ感謝シ居タリ滿洲ヨリ歸來後十

ンビー」

旨ヲ語リ居タリ

テハ概ネ其ノ使命ヲ果シタルモ

ノト思惟シ大体滿足シ居ル

Kobe, Osaka and Yokohama etc., according to B's requirements, and the payment therefor to be made cif Dairen, Moji,

the sale of and ART.IV. The shipment is materials to be supplied.

steel materials conditions: A) and the Buyer (hereinafter called B) for November, THIS AGREEMENT, 1934, between the Seller(hereinafter called on the under-mentioned made this Tenth terms day

of

sizes, quantities and destination,

etc., of

the

ART.Ⅲ.

When placing an order,

B shall on each

occa-

requirements

sion negotiate with

A for

the descriptions,

shall

have

the

option

of

deciding

his

添

「フエデレーション」側ニ通知スヘク此ノ場合右「フエデ メ引 携 モノノ如ク更ニ本件契約ヲ契機トシテ漸次日滿英經濟的 實績トシテハ其ノ期待ニ副ハサルモノアルヘキモ今次視察 賣買豫約書ニ定ムル物品 N 購買量ヲ二萬噸ヨリ差引クコトナシ但シ昭和十年ヲ過キタ エデレーション」カ註文ニ應シ得サル場合ト雖當該三菱ノ レーション」ノ提供價格カ他ノ供給者ノ價格ヨリ高ク「フ N ノ土産トシテ又我方好意ノ表彰トシテ相當之ヲ多ト 、場合ハ本豫約ハ終了スルモノトスヘキコトヲ定メタリ本 ニ步武ヲ進メ得ヘク我方ニ於テモ今後出來ル 續キ努力シ度所存ナリ右御參考迄通報ス ノ價額ハ差シテ大ナラス視察團ノ 丈ケ右 ・シ居ル ラ為 提

劎

ヘク同社カ鐵材ヲ外國ヨリ購入セムトスルトキハ必ス

五 日英外交関係

昭和9年11月13日 在英国松平大使宛広田外務大臣より

社との鉄材売買契約成立につい 英国鉄鋼会社を代表する使節団員と我が方商

通二機密第一三八號

如キ ,成立

昭和九年十一月十三日

主義上ノ會談錄作成以上ニ出テサリシカ我方ニ於テハ出來

得レハ此機會ニ何等具体的契約ヲ實現セシムルコトニ

一努力

三、一行ハ英滿經濟提携方ニ關シ具体的注文又ハ契約

Ĩ

ヲ專ラ希望シタルモ短期ノ滯在ノコトニモアリ前記ノ

召ヲ以テ特ニ十月二十五日拜謁ヲ賜ハリタリ

出ニ依リ拜謁ヲ賜ハリ又「エドワーズ」ニ對シテ特別 月二十二日「エドワーズ」以外ノ四名ニ對シ英國大使ノ願

ノ思

213

外務大臣 廣田 弘毅

特命全權大使 松平 恆雄殿

原因

在英國

鐵材貮萬噸ノ賣買豫約書ニ署名セリ該豫約書ハ昭和十年中 Steel Federation ヲ代表シ三菱商事加藤専務ト別添寫ノ通 關係筋ノ斡旋ニテ十一月十日同人ハ British Iron and 延期シ其ノ内上海等ヲモ視察シタルカ同地ヨリ歸來後我方 通ニ有之處一行中ノ内「ピゴツト」ノミハ約二週間出發ヲ 際出來得ヘクハ其ノ希望ヲ達成セシメ度考ナリシハ旣電 英國實業視察團側ノ熱心ナル希望モアリ我方ニ於テモ此 前記「フエデレ ニ日滿兩國ニ於テ鐵材ヲ外國ヨリ購入スル場合ニハ三菱ハ 英國實業視察團トノ鐵鋼材買取契約成立ノ件 1 シヨン」ヨリ少クト モ鐵材二萬噸ヲ買取 Ī 1

尚委細

ハ 「エド と

-ワ ー

ヅ」ヨリ御聽取アリ度シ要スル

ニー本

・ツショ

モ英國側ト

ハ

一行

2、兩國間ニ最近多少氣マツキ關係ヲ誘致シタル主タル

ノ既ニ充分承知セル滿洲問題ニ關スル英國ノ態度ノ

シ度キ意嚮ナリ

國關係殊ニ經濟方面ノ接近ヲ期スルニハ先ツ此點ニツキテ 外我商品ノ一部ニ關シ割當制度ヲ强行セル經緯ニモ存シ兩

シテ何トカ考慮ノ必要アル所以モヨク諒解シ

夕

解促進ニ盡力スヘク意氣込ミ居タリ

ヲ仝情ヲ以テ諒解シタルモノノ如ク歸國ノ上ハ日英間ノ諒

ハ本邦ニ於テ良好ノ印象ヲ殘シ且ツ我國情

ART. I. In case Manchoukuo and/or Japan require to from A. buy at least 20,000 tons of the said materials United States of America in 1935, B agrees to import steel products from Europe and/or the

ART. II. black sheets, & shapes, rails & fish plates, wire rods, plates, sheet bars etc., and such finished steel as bars such semi-finished steel as ingots, slabs The articles to be purchased shall consist hoops & bands, etc., of which B ନ୍ଧ of

τ

了解シ居レル旨附言シ居タリ	盟申越しについて
ヘク	視察報
尙「ロ」ハ重光次官ノ注意モアリ歸英後ハ當地石油業者ニ之ヲ取扱フヘキヤニ苦心シ居ル旨述ヘ居タリ	21 昭和9年12月7日 広田外務大臣宛(電報)
石油專賣問題カ右報告ノ價値ヲ弱ムルコトヲ憂慮シ如何ニ	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
以テ内報スヘキ旨ヲ述ヘタルカ「バ」モ「ロ」モ滿洲國ノ	Managing Director of Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltd.
二十日ニー應ノ報告ヲ公表スルコトトセルカ其ノ要領ハ前	Kyohe Kato (signed)
カラサルニ付具体的註文等ノ問題ハ後廻トシ不取敢十二月	BUYER:
ノ日本側ノ注意モアリタルカ報告ノ發表ヲ餘リ延スモ面白	
滿洲國ヨリ商品ノ具体的註文アル迄差控ヘル方然ルヘシト	On behalf of British Iron & Steel Federation.
ナリト述へ尙「ロ」ハ一行ノ視察報告ノ發表ハ總テ日本及	Julian Piggott (signed)
ハ深ク感銘セルニ依リ今後諸方面ニ於テ右實狀ヲ話ス積リ	SELLER:
狀態ノ驚クヘキ進步及滿洲國方面ニ於ケル急激ナル發展ニ	
待ニ對シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表シタル上日本ニ於ケル産業	sha.
來訪何レモ我皇室ヨリ蒙リタル殊遇及朝野ヨリ受ケタル歡	Managing Director of Nippon Seitetsu Kabushiki Kai-
十二月六日「ロード、バーンビー」、七日「ローコツク」	Tsuruo Noda (signed)
1 1)	
本 省 2月8日发音	of Foreign Affaire
ロンドン 12月7日後発	Director of the Commercial Bureau in the Department
S.Kurusu (signed)	enable B to purchase as large quantity as
	and conditions as he are so
	give in reciprocation to B the ve
Vice Minister of the Department of Commerce and	specified quantity of 20,000 tons, while A
Shinji Yoshino (signed)	as much quantity as possible over the
in presence of	ART.VI. B agrees to make every endeavour to purchase
Signed and delivered	balance shall be automatically cancelled.
and year first above written.	unable to accept the full 20,000 tons, any
have hereunto set their hands in quintuplicate the day	ART. I., but if at the end of 1935 A has been
IN WITNESS whereof, the parties to these presents	deducted from the 20,000 tons specified in the
embodied upon negotiations in good faith.	to meet this price, the tonnage shall not be
ment or alteration of the contract herein	lowest price offered by others. If A is unable
will agree to cancellation, suspension, amend-	not the lowest bidder, B shall inform A of the
pathize with the other party's position and	with other foreign suppliers and in case A is
and B mutually agree to respect and sym-	he shall make enquiry to A simultaneously
purchase of the goods as specified above, A	of the foreign goods specified in the ART. II,
circumstances, from making the supply or the	ART.V. Whenever B is in the market for any tonnage
ART. VII. In case A or B is prevented, under unavoidable	mode of settlement.
possible.	shall be made in accordance with customary

	機關並ニ販賣制度ニツキ論ジテ居ル course, send you a copy. I am of course s	ノ有スル機會等ニ付論ジ、更ニ滿洲ニ於ケル英國產業代表 as a whole is being published on the 21st and I will, of	交通、通信、公共事業、財政、治安囘復、通商、英國産業 from our visit. The Official Report to British Industry	ジ次ニ「滿洲國」ト題シ滿洲ノ經濟狀態、南滿鐵道、農業、 busy, since I came home, with all matters	府ノ助成、日本産業發展ノ影響、英國ノ對日産業政策ヲ論 As you can readily understand, I hav	ト題シ人口問題、爲替低落、賃銀並ニ勞働時間、能率、政 │ of the Mission.	附屬書ノ第一部ハ「日本産業ノ現狀ト將來ノ發展ノ豫測」 🥼 personal assistance you gave to me and all	國モ稗益スル所アルデアラウ grateful I shall always be to you for all i	克ツテ漸次經濟的繁榮ヲ齎シ之ガ為ニ滿洲國ノミナラズ他 pleasure it was to me to see you again and how deeply	程ニアリ其ノ前途ニ困難ハ存在シテ居ルガ遂ニハ之ニ打チ I need not tell you what a tremende	判斷シ得ルノデアル、勿論此ノ近代的國家ハ今尙創設ノ過 prosperous New Year.	事實ヨリシテ滿洲國ガ好箇ノ市場ヲ提供シツツアルコトヲ myself, our very warmest wishes for a	ル又交通、衞生、教育等ノ設備ハ次第ニ整備シ來リ是等ノ I am writing to send you, on behalf of	脱シ統制アル課税ニ服シ且安定セル通貨ノ恩澤ニ浴シテ居 My dear Shigemitsu,	然シ滿洲國民ハ今ヤ安全及秩序ノ増大ヲ喜ビ軍閥ノ掠取ヲ	立スルニ至ツタ事情ニ付テハ何等意見ヲ開陳シナイ	英國產業聯盟極東使節報告書ハ四六版三十九頁ノ小册子デ 我々ノ視察團ハ非政治的ノモノデアリ、從ツ	本 省 12月21日前着 リ近ク具体的ナ「ビジネス」ノ申込アル	ロンドン 発 官憲ノ側カラモ之ヲ裏書キスルヤウナ文書ヲ寄セ	国石油専売問題についてニーニ關シ資本商品ヲ供給スル機會アルコトヲ確	使節団報告書に対する日本側評価および満州 國ニ英國産業ノ參加ノ機會アルコトヲ確信シ	州国外交部顧問エドワーズ宛書簡写	三 昭和十年一月二十九日付重光外務次官より満 訪問目的ハ滿洲國ハ其ノ開發事業ニ英國ノ參	いて	使節団報告書の各方面における評価などにつ	ズより重光外務次官宛書簡写ト述べ、日本經濟聯盟及英國産業聯盟ノ共同	ニ 十二月二十一日付満州国外交部顧問 エ ド ワー │ アル極東ノ經濟的繁榮ハ日英ノ了解ニ依ラナケレ	売問題などについて	使節団接遇に対する謝辞および満州国石油専(日本ニハ英國ニ對スル純眞ナ友好的精神ガ存シ此ノ友好關係	より重光外務次官宛書簡写日本訪問ノ目的ハ日本實業代表者ト聯繫ヲ付クルニアツタガ	付記──十二月十一日付満州国外交部顧問エドワーズ 於テ英國有力實業家ガ續々極東ヲ訪問センコトヲ勸獎シタ上	使節団発表の報告書概要について 成、旅程、日滿ノ歡迎振等ヲ述べ一般報告デ	21 昭和2年1月2日 広田外務大臣宛(電報) 「アア言デ「ミツション」派遣ノ目的、「ミツ	ヨロ) F2 1) 1) 1
o opelit to minito about	f course still working	the 21st and I will, of	rt to British Industry	with all matters which arose			me and all the members	1 for all the help and	again and how deeply	tremendous personal		for	behalf of my wife and		11th December 1934.	London, W.9.	リ、 従	テルベキ確證ヲ得テ居ル	ナ文書ヲ寄セラレテ居	コトヲ確メ、且滿洲國	・ヲ確信シ殊ニ開發事業	アツタガ自分達ハ滿洲	英國ノ參加スルコトヲ			盟ノ共同委員會設立ノ	一依ラナケレバナラナイ	又英國ノ利益ニ重大關係	柄神ガ存シ此ノ友好關係	柳繫ヲ付クルニアツタガ	同センコトヲ勸奬シタ上	一般報告デハ其ノ前言ニ		、出來テ居ル、報告ハ先

these. н can safely say that there lis. considerable

hard at other matters and it is too early to write about

208, Clive Court,

(付記一) Personal & Private.

五 日英外交関係

319

upon hoping that a method will be found to leave the foreign qn ß admitted, but are being publicly and privately reported development are not only beginning to be interests just at the moment when its stabilisation pity that the new State should antagonise international oil companies in statu quo, as it seems to me a express my personal opinion as between you and me, satisfaction at the results of the Mission, though, a great pity that criticism should have been stirred by the Manchoukuo Oil Monopoly question. I am generally great and ъ ÷

Admitting that the oil question was one of revenue to the State, it would appear much more advisable to have instituted a Consumption Tax. This would not have interfered with the distributing agencies and, even at this eleventh hour, a change in this direction might be considered, although, taking the larger view of things, I should prefer to see the whole thing kept in abeyance at the immediate moment.

As soon as I can, I will write to you privately on

other matters. With the most sincere and warmest remembrances from us both.

Yours very sincerely

A.H.F. Edwardes (signed)

.S. Please give my respects and best wishes to Mr.Hirota.

Ъ

(付記二)

My dear Shigemitsu,

21st December 1934.

With reference to my letter of the 11th December, which was sent to you through the Japanese Embassy, I enclose herewith the Report of the Mission as I promised, though I understand that Locock is also sending

The Report, which I think is a good one, has evoked much interest and satisfaction here, as you will you a copy

no doubt see from the leaders in some of the newspapers.

I was invited yesterday by the Grand Council of the Federation of British Industries to attend their meeting, at which the Report was passed and the formation of an Anglo-Japanese Committee was approved. The meeting was very friendly and many nice things were said. I understand that I shall be invited to be a member of the Anglo-Japanese Committee on this side. During the past week I have had three or four long talks with Mr.Yoshida, who will no doubt tell you about them on his return.

I shall be interested to hear from you what you think about the Report. If you ever have time to drop me a line, though I know how busy you are, 208, Clive Court, Maida Vale, London, W.9., is the best address to write to me on private matters, unless of course you send the letter through the Embassy.

Yours very sincerely

321

(付記三)

January 29th, 1935.

A.H.F.Edwardes (signed)

My dear Edwardes:

Your two letters—one of the 11th and the other of the 21st, December last year—you sent through the Embassy were duly received, for which I thank you heartily and especially for the Report enclosed in the latter.

No doubt, by this time you have been advised how favorably this Report of your Mission was received in Japan and Manchoukuo. It is certainly a good one, comprehensive yet clear and compact. There is no question as to the usefulness of its practical suggestions on the business side. Besides, it throws so much light on Manchurian affairs and Japanese industry in general that the Report constitutes an international document of a wide significance and immeasurable value. You may be

ness line. Oil people understand our position and seem	
to be ready to enter into business talks with Japanese.	編 注 本書簡の差出人欄には重光の署名はないが、付記一
I feel, therefore, extremely sorry that we received	および二との関係から差出人は重光とした。
*事項編注	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
昭和九年の海軍軍縮問題、および日英不可侵協定締結問題をめぐる日英間関係文書につい	ヽる日英間関係文書については、既刊『日本外交文書 一九三五
年ロンドン海軍会議』を併せて参照。	
六 日ソ外交関係	
216 昭和 9 年 1 月 13 日 在ソ連邦大田大使宛 (電報) 広田外務大臣より	結果滿宛往電第一六號ノ通リ目下當方ヨリ至急釋放方慫慂ルコト、ナリ居リタル趣ノ處其ノ後八日「ユ」大使申出ノ
共産党中央委員会におけるリトヴィノフ等の	中ナルカ何レノ途右釋放ハ不遠實行ノ運トナルヘシ然ル處
演説に関しソ連当局の注意喚起方訓令	貴使屢次ノ電報ニ依レハ近次「ソ」側新聞ノ論説ハ未タシ
付記一 昭和八年十二月二十九日発在ソ連邦大田大使	モ仝國政府ノ要人迄テ屢々中央執行委員會ノ會議等ニ於テ
より広田外務大臣宛電報第六五五号	公然日本ノ對「ソ」敵對煽動政策ヲ云々シ日本ニ對シ不當
共産党中央委員会におけるモロトフ演説中対	ノ言辭ヲ弄シオル處本大臣ニ於テハ怪文書事件メ如キ先方
日関係部分について	ノ不信行爲アリタルニ不拘不遠「ソ」側ノ態度改マルヘキ
ニ 昭和八年十二月三十一日発在ソ連邦大田大使	ヲ期待シ折角兩國關係ヲ友好親善ノ軌道ニ引戻スコトニ努
より広田外務大臣宛電報第六六三号	メ居ルモノニシテ先方ノ態度ハ甚タ了解ニ苦シム所ニシテ
共産党中央委員会におけるリトヴィノフ演説	甚シク前記ノ方針ニ障害ヲ與ヘ居レリ右ニ付テハ貴使ニ於
中対日関係部分について	テ既ニ適宜「ソ」側ノ注意ヲ喚起シ居ラルヽニアラスヤト
本 省 1月13日後7時10分発	思考スルモ旧臘二十九日ノ聯邦中央執行委員會ニ於ケル
第六號(極祕)	「リトヴイノフ」ノ外交演説ノ如キ日本ノ政策ヲ以テ國際
貴電第九號ニ關シ	政局上ノ妖雲ナリトシ滿洲ニ於ケル日本ノ軍事行動ハ幾多
滿洲國側ニ於テハ「ソ」聯人釋放ヲ大体一月下旬ニ實行ス │	國際條約上ノ義務ニ違反スト妄斷シ日本ハ東支ノ權利ヲ侵

successful in the end. articles of the Nine Power Treaty, and thus reviving Manchoukuo. the fundamental discussion on the establishment of official note from the British Embassy invoking some н hope the business talks will þe

322

here

interested to know that one of the leading Magazines

has just published the complete text,

both in

translation and in the original.

н

which, I confidently

hope, will undertake to

remove

serve on the newly-created Anglo-Japanese Committee

am extremely pleased to hear that you are to

regards and best wishes. often. My wife joins me in sending you our warmest I thank you again, and hope that you will write me

A.H.F.Edwardes, Esq., 208, Clive Court, Maida Vale, London Yours faithfully,

in the Far East.

we are doing our best to adjust the matter on a busi-

As for the question of oil monopoly you speak of

economic collaboration between your country and mine ing Manchoukuo are mostly traceable, and to promote misunderstandings to which current criticisms regard-

323